

別冊 1

令和 3 年度使用

# 中学校用教科用図書の 選定に必要な資料

島根県教育委員会

各発行者記号は、次のとおりである。

A	東京書籍	L	新興出版社啓林館
B	大日本図書	M	山川出版社
C	教育図書	N	数研出版
D	開隆堂出版	O	日本文教出版
E	学校図書	P	学研教育みらい
F	三省堂	Q	自由社
G	教育出版	R	育鵬社
H	教育芸術社	S	学び舎
I	光村図書出版	T	廣済堂あかつき
J	帝国書院	U	日本教科書
K	大修館書店		

「選定に必要な資料」の観点は以下のとおりである。

観 点		説 明
1	内容、程度、分量等	記述された内容、程度が、生徒の発達段階に適合しているか。また、分量が適切であるか。 【各科目・特別の教科道徳 共通】
2	題材の選択や構成等	取り上げられた題材の選択や構成は、学習を効果的に進めるために適切なものになっているか。 【各科目・特別の教科道徳 共通】
3	興味・関心への配慮等	生徒が興味・関心をもって学習できるように工夫されているか。 【各科目・特別の教科道徳 共通】
4	教科の特性、県の実態や課題への適合等	各教科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。【各科目】 道徳科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。【特別の教科道徳】
5	各教科及び実生活との関連についての工夫	各教科における資質・能力との関連や実生活へ生かせる工夫が盛り込まれているか。【各科目】 各教科等における道徳教育との関連や実生活へ生かせる工夫が盛り込まれているか。 【特別の教科道徳】
6	その他	観点1～5にあてはまらない内容やその他特筆すべき事項 【各科目・特別の教科道徳 共通】
総括		観点1～5及びその他についての記述や感性を育む要素などを総合したその教科用図書の全体的な特徴等 【各科目・特別の教科道徳 共通】

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○「本編」「基礎編」「資料編」の3部で構成され、「基礎編」では言葉の力を身に付けるための資料が掲載され、「資料編」には学習に役立つ資料や学びを深化できる資料が掲載されている。</p> <p>○「読む」領域の学習材末の「てびき」では、学習の目標や活用例が明記され、学習に見通しが持てるよう工夫されている。(1年p. 104)</p>	<p>○本編の「学びの扉」の内容を巻末の基礎編「学びを支える言葉の力」で深く学べるように工夫されている。(2年p. 54, 230)</p> <p>○「読む」領域では3年「いつものように新聞が届いた～メディアと東日本大震災」など社会的に話題となった事柄と関連する学習材が取り上げられている。(3年p. 184)</p>	<p>○1年古典教材導入では、「伊曾保物語」を取り上げ、身近な童話との関連を示し、古典学習へ関心を引き出す工夫がされている。(3年p. 148, 1年p. 130)</p> <p>○オリジナルキャラクターや「学びの扉」での漫画の活用により、主体的な学びに導くよう工夫されている。</p>	<p>○2年「ハトはなぜ首を振って歩くのか」など、文章と図表を結び付けて読むことを通して、生徒の「読む力」を育成するよう工夫されている。(2年p. 55)</p> <p>○読書への招待、読書案内、著名人の読書のすすめ等、書籍紹介ページを設け、読書活動とともに、図書館利用や情報活用を促す工夫がされている。(1年p. 287-291)</p>	<p>○他教科との関連があるページには、マークがついており国語で学んだことを他教科の学習に生かすことができるよう工夫されている。(1年p. 172)</p> <p>○巻末の「言葉を広げよう」では、表現の幅を広げるために役立つ言葉が一覧で記してあり、生徒の語彙を増やす手立てが講じられている。</p>	<p>○二次元コードが記されており関連する音声や映像、練習問題を確認でき、家庭学習に活用できる。(1年p. 130-336)</p> <p>○1年生最初の教材は文字や行間を大きくし、1年生への配慮がされている。また、1・2年では小学校6年の漢字問題が付され、小中連携が図られている。(1年p. 14, 222, 2年p. 226)</p>	<p>○レポートや新聞、手紙、多様な形式の話合いやスピーチ等を取り入れ、他教科の学習との連携や生活を支える言語能力の育成が図られるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭カラーページや各単元の扉には、季節感のある写真、四季を味わう言葉や詩歌などを置き、感性を磨く場としての工夫がされている。</p>
F	<p>○本編と資料編の2部構成となっている。資料編では実践的な方法や社会生活で役立つ知識がまとめてある。本編の「読む」領域では比較・仮定・関連付けなど情報整理の仕方について学びやすく配置してある。(1年p. 28, 74, 190)</p> <p>○「学びの道しるべ」で学習の流れを示し、生徒の主体的な学びに繋がるよう工夫されている。(1年p. 28)</p>	<p>○「読む」領域では各学習材に「読み方を学ぼう」を置き、3年間で22種類の読み方スキルを身に付けられるよう図示されている。(1年p. 76, 巻末)</p> <p>○2年「心を込めてわかりやすく書く」では、SNSを含む文字によるコミュニケーションについて考え実践することを通して、主体的に生活に生かすことができるよう工夫されている。(2年p. 52)</p>	<p>○古典の学習では出典の作品成立時期を年表で示し、視覚的にとらえやすいよう工夫されている。</p> <p>○各学年とも「歌の言葉」として有名歌手の1作品を載せ、言葉への興味・関心を持つよう工夫されている。(3年p. 206)</p>	<p>○全学年の第6単元に、複数の情報に関連づけながら現代の課題について考える学習を設定し、系統的に自分の考えを形成する力を伸長していくことができるよう工夫されている。(2年p. 142)</p> <p>○3年古典教材「能・狂言」は本県の伝統芸能である神楽に通じ、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度につなげることができるよう工夫されている。(3年p. 127)</p>	<p>○各学年に「情報に関連づける」という単元が設けられ、複数の情報に関連づけて考えをまとめる学習活動が設定されている。</p> <p>○巻末の資料編に情報活用のページや、メモの取り方や話し合いの仕方、各種文章の書き方等の実生活に生かせる内容が網羅されている。</p>	<p>○「読書の広場」の二次元コードのリンク先には参考になる図解が掲載され、学びを生かすことができるよう工夫されている。(2年p. 255)</p> <p>○「日本文学名作集」として、各時代の代表的な作品とその冒頭を年表上に示し、歴史学習とともに理解を深めることができるよう工夫されている。(2年p. 304)</p>	<p>○確かな言葉の力をつけるために「読み方を学ぼう」という読み方スキルの学習を効果的に配置し、生徒の主体的な学びにつながるよう工夫されている。</p> <p>○古典の学習資料には写真や絵が多く取り上げられ、中学生を古典の世界へといざなう仕掛けが工夫されている。(1年p. 116-125)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○各学年とも巻頭に「学ぶ内容と身につけたい言葉の力」・「教科書の構成」を記し、国語学習の概要をまとめられており、学習に見通しが持てるよう工夫されている。(p. 6-11)</p> <p>○国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連を示し、社会・世界との関わりを考えさせるよう工夫されている。</p>	<p>○「学びのチャレンジ」では、幅広い文種の教材を用いて、図表やグラフ、文字以外の情報と文章を関連付けて読み、考えを形成して表現する活動に取り組むことができるよう工夫されている。(3年 p. 208)</p> <p>○「読む」領域では教材の「みちしるべ」で作品に対する読み深めや、自分の考えをもつことができるよう配慮されている。(2年 p. 34)</p>	<p>○1年は昔話「桃太郎」を入口として、古典の学習に興味を持つことができるよう工夫されている。(1年p. 110)</p> <p>○メディアと表現では漫画独自の表現方法を捉えることを目標とするなど、生徒になじみのある漫画を記載し、興味・関心を持つことができるよう工夫されている。(1年p. 226)</p>	<p>○教材ごと、単元ごとに関連図書を紹介しており、並行読書を促すとともに、分野を網羅した読書活動へつながるよう工夫されている。</p> <p>○「広がる本の世界」として、9回にわたって全90冊の本を紹介するなど読書活動につながる記載を多く取り入れている。(1年p. 28)</p>	<p>○情報化社会における情報活用のみならず、情報モラルの点で考えさせられる内容が読み物教材でおさえられている。(1年p. 62, 64, 2年p. 84, 3年p. 60, 64)</p> <p>○巻末の「言葉の自習室」には、多角的に学習を深められるよう、「百人一首・十二支・原稿用紙の使い方」に関する情報が記されている。(1年p. 306)</p>	<p>○全学年裏表紙の「ふるさとを巡る」では、文学にゆかりのある全国各地の風景を写真掲載し、作者や作品と共に確認できるように工夫されている。</p> <p>○各学年の学習教材の中には「まなびリンク」が設定されており、補助資料や外部サイトで関連情報を知ることができる。(p. 12)</p>	<p>○教材冒頭の「学びナビ」で単元の目標と学び方のポイントを確認して学習の見通しをもち、「みちしるべ」を参考にしながら学びを深め、「振り返り」で学びを自覚できるよう工夫されている。</p> <p>○国連の「持続可能な開発目標」の視点で教材が精選され、実社会における様々な問題を提起している。</p>
I	<p>○説明的文章の教材として「ダイコン」「だまし絵」など、図や絵を多く用いた教材を配置し、文章と図表を結びつけて読むことができるよう工夫されている。(1年p. 42-49)</p> <p>○「読書生活を豊かに」では翻訳作品の読み比べを通して、読書活動と日常生活を結びつける内容となっている。(2年p. 84)</p>	<p>○1年生の最初に音読や発表の仕方、ノートやメモの取り方、辞典の使い方などの確認をしてから、中学校の授業に向かえるよう配慮されている。(p. 16-20)</p> <p>○各教材の終末の「学習」は、振り返りとして「何ができるようになったか」を自分の言葉で書く設定となっており、理解したことを言語化できるよう工夫されている。(1年 p. 50, 51)</p>	<p>○古典導入の1年「古典の世界」で3年間で触れる古典教材の概略を紹介し関心を持たせるとともに、現代と変わらないものの見方や感じ方、想像力等に気付くことができるよう工夫されている。(1年p. 156)</p> <p>○レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」をはじめを教材文に関連する絵画を折り込みページで大きく掲載するなど、興味・関心をもって読み深めることができるよう工夫されている。(2年 p. 171-174)</p>	<p>○巻頭折り込みページに「思考の地図」と題して、各学年の発達段階に適した思考ツールが紹介されており、学習で思考が深められるよう工夫されている。(p9, 10)</p> <p>○「学習の窓」では、汎用的な読みのポイントを図解しながらわかりやすく解説している。また巻末では年間学習で大きく掲載するなど、興味・関心をもつことができるよう工夫されている。(1年p. 50, 266)</p>	<p>○巻末には、下学年の漢字の一覧があり、特に1年では手書き風の書体で書かれた漢字が掲載され、漢字の定着に向けて配慮されている。(1年p. 258)</p> <p>○3年「実用的な文章を読もう」や「報道文を比較して読もう」では、情報伝達の工夫や相手意識を理解する学習を通して、論理的思考力や情報活用力を身に付けることができるよう工夫されている。(3年p. 62, 64)</p>	<p>○二次元コードには動画や資料、学習コンテンツが収録されており、自主学習や家庭学習等で学びの幅が広がるよう工夫されている。(3年 p. 150)</p> <p>○「ことわざ・慣用句」では、人権的な配慮が必要な言葉もあることが明記されている。(3年p. 118)</p>	<p>○「読むこと」教材の「学習」ページに一連の学習過程を示し、各単元で重点を置く過程を強調することで、身に付ける力を意識して学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○裏表紙には「色の名前」など(2年)、日本語の持つ言葉の豊かさ・美しさを身近に味わえるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○主な毛筆教材は1・2年が各5教材、3年1教材。硬筆は各学年に古典を1教材ずつ配置した他は、毛筆と関連付けた学習内容に焦点化した教材となっている。</p> <p>○「書写のかぎ」で学習事項を明確にした基本単元と、様々な場面を設定をした活用単元で構成され、さらに日常生活に生かせる内容をまとめた「書写活用ブック」を巻末に配置している。</p>	<p>○基本単元は、導入で硬筆文字から課題を見つけ、毛筆で書いて学習事項を確認し、硬筆で他の文字を書くことで定着を図る構成となっている。</p> <p>○1年生の冒頭には「小学校の学習を振り返ろう」、3年生には「古典をもとに」を設け、小中高の円滑な接続に配慮している。(p. 6-13, p. 94, 95)</p>	<p>○生徒自らが課題に気付ききっかけとなるように正しく整った例だけでなく、改善すべき点がある例も示されている。(p. 14, 20)</p> <p>○書くときの動きを重視し、行書の筆運びをパターン化して手本に示すことにより、行書に取り組みやすいよう配慮されている。(p. 32, 34)</p>	<p>○コラム「文字のいずみ」で、石州半紙や隣県の熊野筆など様々な側面から文字文化を取り上げ、伝統文化の担い手としての自覚が高まるよう工夫されている。(p. 40, 41)</p> <p>○「生活に広げよう」では職場訪問や防災訓練といった地域での体験活動に書写をどのように生かしていけばよいか考える単元が設定されている。(p. 45-47, p. 75-77)</p>	<p>○「教科関連マーク」をつけ、国語や他教科等の学習に関連する内容が示されている。(p. 45)</p> <p>○「現代につながる文字の役割」や「仕事の中で使う手書き文字」について掲載し、書写で学んだことをどのように生かしていくのか意識できるよう工夫されている。(p. 84, 85, 88, 89)</p>	<p>○単元末に、自分で書いた文字を使って説明し合う「振り返って話そう」という対話的な学びが取り入れられている。(p. 33)</p> <p>○すべての毛筆教材に二次元コードによる解説付きの動画が準備されている。(p. 1)</p>	<p>○生徒自ら課題を発見し、身に付けた知識・技能を日常生活にどのように生かしていけばよいか思考する活動を設けている。</p> <p>○小中高の接続を配慮するとともに、文字を正しく整えて書くための知識・技能を「書写のかぎ」として、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にし、ワイド版の見開きにコンパクトにまとめている。</p>
F	<p>○主な毛筆教材は1年6教材、2年4教材、3年1教材。毛筆の後に様々なタイプの書き込み式の硬筆教材が配置されている。(p. 20-23, 30, 31)</p> <p>○「基礎編」「本編」「資料編」の3部構成となっており、「基礎編」で小学校の既習事項を確認し、3年生では高校につながる「篆刻」や古典が紹介されている。(p. 76, 80)</p>	<p>○単元は、毛筆で書いて確かめた内容を硬筆で書き込み、日常に生かすというシンプルな構成になっている。</p> <p>○各教材のはじめに書き方のポイントをわかりやすく示すとともに、巻末にその一覧表をつけることで、3年間の学習の系統性を一目で確認できるよう工夫されている。(p. 38, 39, 125)</p>	<p>○硬筆の練習では、はじめにマス目に書き、次に中心線が示されたものに書くといった、基本を確認しながら学べる工夫がされている。(p. 20, 21)</p> <p>○「自分の文字を書き残そう」で1年生の文字と3年の終わりの文字を書き、3年間の成長を自覚できるページが設定されている。(p. 6)</p>	<p>○地域の魅力をまとめた「情報誌を作ろう」という単元ではふるさと学習に生かせる紙面づくりが学べる内容となっている。(p. 66, 67)</p> <p>○手書き文字に関わる達人を紹介することで、手書き文字の魅力や文字文化と自分の関わりを考えることができるよう工夫されている。(p. 74, 75)</p>	<p>○日常でよく使う言葉のなぞり書きや47都道府県名の書き方を地図で位置確認しながら特産品とともに学べるなど、各教科との関連が図られている。(p. 46, 47, p. 56, 57)</p> <p>○「日常の書式」で時候の挨拶等の手書き見本を掲載するなど、生活に生かせるよう工夫されている。(p. 82-87)</p>	<p>○単元末に自分が学んだことを確認する適用題と、文章として書き残す欄が設けられており、学びの足跡をわかりやすく振り返ることができるよう配慮されている。(p. 23, 33)</p> <p>○「部分別行書一覧表」で多くの部首を、複数の書き方で大きく掲載している。(p. 68-71)</p>	<p>○各教材冒頭の「書き方を学ぼう」で書き方のポイントを示し、さらに巻末にその一覧表をつけることで、一目で学習内容が分かるように工夫されている。</p> <p>○硬筆による書き込みページが全10教材分設けられ、マス目やなぞり書きで点画の組み立てなどの基礎基本から繰り返し学べるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○主な毛筆教材は1年が5教材、2年が4教材、3年2教材で補充教材も多い。硬筆は各学年に古典や名文の教材を取り入れ、国語との関連を図っている。(p. 72-77)</p> <p>○文字文化や日常生活の中の文字を紹介する内容が多く盛り込まれ、幅広い知識と教養を身に付けることができるよう配慮されている。(p. 38-41)</p>	<p>○右側の毛筆の基本紙面をよく見てから、左側の紙面で、学習ステップを追いながらポイントを確認するという構成になっており、学習手順が明確である。(p. 46, 47)</p> <p>○冒頭の「目的に合わせて書こう」で相手意識や目的意識を持ち、書写を学ぶ意義を意識できるように配慮されている。(p. 4, 5)</p>	<p>○体育祭などの行事や生活の中で使われている書を幅広く例示したり、歴史上の人物の手書き文字について紹介したりして、書写への興味・関心を高めている。(p. 34, 35, 56, 57)</p> <p>○コラムでは写真を多く掲載したり、活用単元の「学校生活に生かして書く」では手順を丁寧に説明したりして、生徒が活動をイメージしやすい配慮がされている。(p. 36, 37)</p>	<p>○身近なところで見られる多様な文字や松江城をはじめとする全道府県の城の碑文など、多角的な視点で文字文化を紹介している。(p. 94-97)</p> <p>○「情報を整理して活動につなげよう」という課題解決の手順を示した資料が掲載されている。(p. 110-112)</p>	<p>○1年のスタートで効率的なノートの書き方を学ぶことで、他教科にも生かせるという意識を持つことができるよう工夫されている。(p. 12-13)</p> <p>○「校庭の植物観察をレポートにまとめる」や「英語のエアメールの書き方」など、各教科との関連を図った課題が設定されている。(p. 30, 31, 105)</p>	<p>○漢字一覧表は、漢和辞典と同じように部首と読みの両方から調べられるように工夫されている。(p. 113-128)</p> <p>○「考えよう」では、手本を見る時のポイントが示され、「まなびリンク」で運筆動画を見ることができる。(p. 47)</p>	<p>○幅広い知識と教養を身に付け、我が国の伝統文化を尊重する態度を養えるよう、コラムが充実しており、写真資料も多く掲載されている。</p> <p>○各教科の学習や日常生活に生きて働く書写の力を育成するため、ノートやレポートの書き方、英語のエアメールの書き方など具体例を入れている。</p>
I	<p>○主な毛筆教材は1年が6教材、2年が5教材、3年2教材。硬筆は古典や名文の教材を各学年に3教材ずつ配置し、国語科との関連を図っている。(p. 8, 9)</p> <p>○28ページにわたる「書写ブック」は取り外して使用できるようになっており、教科書本編と併用して書く練習ができるようになっている。</p>	<p>○何をどう学ぶかがわかるよう「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という学習の流れを明示し、「学習の窓」で学習のポイントがまとめられている。(p. 58, 59)</p> <p>○行書の基本的な書き方を学ぶ教材では、半紙原寸大を複数掲載し、書きやすさに配慮している。(p. 60, 61)</p>	<p>○単元冒頭の「やってみよう」では漢字を分解したり、書く速さを比べてみたり楽しく取り組める活動が設定されている。(p. 38, 39, 52, 53)</p> <p>○身近なテレビ番組を取り上げたり、スポーツ選手や漫画家のサインを扱ったりと生徒が興味を持てるよう工夫されている。(p. 84, 85, 105)</p>	<p>○「全国文字マップ」で出雲大社や鳥取砂丘の碑文が紹介され、身の回りの文字に興味関心が持てる工夫がされている。(p. 92-95)</p> <p>○コラムでUD書体について詳しく取り上げ、文字の見え方について多様性があることを理解できるようにしている。(p. 98, 99)</p>	<p>○「季節のしおり」のなぞり書きで、国語科の教科書に掲載されている古文や詩・短歌と関連させ、理解を深める工夫をしている。(p. 106, 107)</p> <p>○学級に掲示する目標の書き方や職場訪問の壁新聞など日常生活で活用する場面を具体例で示している。(p. 50, 80-82)</p>	<p>○人名用漢字表の後に名前の書き方についても触れられている。(p. 141)</p> <p>○教材一つ一つに二次元コードがあり、自学自習も可能な豊富な動画資料が用意されている。</p>	<p>○主たる学習内容は大きく、それに付随する内容は小さく簡潔に示してあり、メリハリのある紙面構成になっている。</p> <p>○取り外して使える「書写ブック」はワークシートのように書き込むことができ、毛筆での学習を硬筆へとスムーズに生かすことができるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○「日本と世界の地域構成」は13時間、「世界の様々な地域」は39時間、「日本の様々な地域」は57時間の配当時数となっている。</p> <p>○地理学習に必要な様々な技能を取り上げた「スキル・アップ」と、資料活用力を高める「資料から発見！」で、学習を進める上で必要な技能が身に付けられるよう工夫されている。(p. 15, 71)</p>	<p>○内容ごとに、「学習課題」「チェック」「トライ」を設け、学習の見通しと振り返りができるように配慮され、「見方・考え方」で思考が深まるよう工夫されている。(p. 78, 79)</p> <p>○単元末のまとめでは、地図を用いて知識を確認し、「みんなでチャレンジ」で、様々な思考ツールを用いて対話をし、深い学びができるよう配慮されている。(p. 242, 243)</p>	<p>○各章のはじめで、学習に興味・関心が高まるよう写真で小学校の学習を振り返り、「導入の活動」で学習の見通しをガイダンスできるように工夫されている。(p. 6, 7)</p> <p>○学習に関連のある話題を取り上げた「地理にアクセス」で、興味・関心を高め、学習を広げたり、視点を変えてとらえたりすることができるよう工夫されている。(p. 93)</p>	<p>○竹島の写真と地図(位置図と地形図)が掲載され、隠岐の島町に属すること、韓国の不法占拠に日本が抗議していること、自然環境や潮境が近くにあり豊富な漁業資源があることなど地理的特色が記述されている。(p. 26)</p> <p>○石見が紹介された地図、海士町の遠隔授業、浜田自動車道開通による人の移動の変化、松江市のRubyでの町おこしを取り上げられている。(p. 21, 197, 200, 204)</p>	<p>○他分野・他教科との関連を図った学習が進むよう、「教科名：題材」やマークが表示されている。(p. 21, 23)</p> <p>○世界・日本の諸地域では、それぞれの地域で仕事や活動をする人のインタビューや、ICTで変わる離島の医療などを取り上げた「もっと地理」のコーナーで、身近な問題への課題意識が高まるよう工夫されている。(p. 118, 189, 196)</p>	<p>○知識・技能を活用する「読み取る」「考える」「集める」「まとめる」を設け、学習を深められるよう工夫されている。(p. 21, 28, 82)</p> <p>○「Dマーク」の表示してあるページでは、巻頭の二次元コードで学習を広げ、他分野や他教科との関連を確かめることができるよう工夫されている。(p. 5)</p>	<p>○単元ごとに設けられた「探究課題」を、単元末に様々な思考ツールを用いたグループでの話し合い活動を行いながらまとめ解決することで、思考力・判断力・表現力を身に付けることができるよう配慮されている。(p. 235, 242, 243)</p> <p>○「人権・平和」など5つのテーマやSDGsを取り上げ、現代的な諸課題を意識して学習を進められるよう配慮されている。(巻頭3, p. 1, 55, 270)</p>
G	<p>○「日本と世界の地域構成」は9時間、「世界の様々な地域」は43時間、「日本の様々な地域」は63時間の配当時数となっている。</p> <p>○「地理の技」のコーナーを設け、地図やグラフの基本的な扱い方が身に付けられるよう工夫されている。(p. 17)</p>	<p>○内容ごとに、「学習課題」「確認」「表現」を設け、見通しと振り返りができるように配慮され、「読み解こう」で思考力・判断力・表現力を高められるよう工夫されている。(p. 96, 97)</p> <p>○単元末の学習のまとめでは、地図や表を使用し、知識を確認し、文章表現や意見交換を通して、学びが深まるよう配慮されている。(p. 65)</p>	<p>○写真や資料に着目させる「LOOK」や学習内容に関するコラム「地理の窓」を設け、興味・関心を高め、学習内容を広げ深められるよう配慮されている。(p. 194, 195)</p> <p>○折り込みでは、宇宙からとらえた地図などを載せ、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 129-132)</p>	<p>○竹島の写真と地図(南東を上にした位置図)が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国が不法に占拠するまでの経緯、日本が抗議し、話し合いを呼び掛けても韓国は受け入れないことが記述されている。(p. 25)</p> <p>○石見神楽と築地松、廃止された三江線、益田市の地域おこし協力隊、石見空港の状況が取り上げられている。(p. 189, 194, 195, 199)</p>	<p>○他分野との関連があるところには分野と内容が、他の地理的分野との関連があるところにはページと内容が示されている。(p. 23, 31)</p> <p>○「地域から世界を考えよう」や多文化共生などについて取り上げた「現代日本の課題を考えよう」のコーナーで、身近な問題への課題意識が高まるよう工夫されている。(p. 64, 228)</p>	<p>○小学校と中学校との学習との接続や地理的な見方・考え方、地図のきまりや地図帳の使い方が、わかりやすくガイダンスできるように配慮されている。(巻頭I-IV, p. 6-8)</p> <p>○章の扉に二次元コード「学びリンク」があり、学習内容に関連するサイトが紹介され、学習を広げ深められるよう工夫されている(p. 9)</p>	<p>○単元の導入ページで写真とともに学習の進め方を示し、単元の終わりに、特設ページで学習を広げ深め、まとめのページで知識を確認したり、表現や意見交換し学びを深めたりするよう配慮されている。(p. 188, 189, 200, 201)</p> <p>○SDGs、地域の文化、最新の話題などを取り上げ、現代的な諸課題を意識して学習を進められるよう配慮されている。(巻頭IV, p. 149, 200)</p>



選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
J	<p>○「日本と世界の地域構成」は10時間、「世界の様々な地域」は39時間、「日本の様々な地域」は59時間の配当時数となっている。</p> <p>○「技能をみがく」では地理の基礎的な技能が身に付けられるように、「資料活用」では資料に関する問いかけや作業内容が示され、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 5, 36)</p>	<p>○内容ごとに、「学習課題」と「確認しよう」、「説明しよう」を設け、見通しと振り返りができるよう配慮され、本文横に補足説明や「解説」を設け、学習を深めることができるよう工夫されている。(p. 112, 113)</p> <p>○単元末の学習のまとめでは、知識を確かめ、段階をふみながら、「地理的な見方・考え方」を働かせて説明してまとめることができるよう配慮されている。(p. 250, 251)</p>	<p>○学習に関連のある話題を取り上げた「地理+α」や、環境・防災・共生がテーマの「未来に向けて」で、学習への興味・関心を高めたり、学習を深め広げたりすることができるよう配慮されている。(p. 197, 257)</p> <p>○節の振り返りでは、最後に「私たちとの関わり」という視点で自分の生活に学習が生かせるような工夫がしてある。(P. 185)</p>	<p>○竹島の写真と地図(位置図)が掲載され、隠岐の島町への所属と島根県への編入、韓国の不法占拠と日本が抗議、話し合いを呼び掛けても応じないことが記述され、昔の竹島の漁業の写真が掲載し、竹島の日にも触れられている。(p. 20, 21)</p> <p>○石見銀山、そろばん、出雲大社、石見神楽、石見神楽継承者の話、観光客数変化、文化財と伝統文化を生かす取組が掲載されている。(p. 187, 198, 199)</p>	<p>○小学校や他分野との関連部分には、分野と内容が示されている。(p. 20)</p> <p>○それぞれの地域の実社会の人々の具体的な話を取り上げた「声」や、都市と農村の交流などを取り上げた「地域の在り方を考える」のコーナーで、学習内容を身近な問題としてとらえられるよう工夫されている。(p. 180, 252)</p>	<p>○地理的な見方・考え方と地理的分野の学習の全体像について、写真を用いてわかりやすくガイダンスができるよう配慮されている。(巻頭7)</p> <p>○学習の理解を助ける動画サイト、コンテンツにつながる二次元コードが多く掲載され、学習を広げ深められるよう工夫されている。(p. 3, 13)</p>	<p>○単元ごとに設定された「問い」を受けて単元末に見方・考え方を働かせたまとめで、知識・技能や思考力・判断力・表現力を身に付け、学習を自分の生活に生かすことができるよう配慮されている。(p. 174, 184, 185)</p> <p>○SDGsに関連した環境・防災・共生の3つのテーマをコラムで特設し現代的な諸課題を意識して学習を進められるよう配慮されている。(巻頭1, 2, p. 89, 91, 191)</p>
O	<p>○「日本と世界の地域構成」は10時間、「世界の様々な地域」は34時間、「日本の様々な地域」は58時間の配当時数となっている。</p> <p>○「スキルup」で、地理の学習で育てたい技能を6種類に整理し、系統立てて習得できるよう工夫されている。(p. 4)</p>	<p>○内容ごとに、見方・考え方を示した「学習課題」「確認」「深めよう」を設け、見通しと振り返りができ、学習内容を深めることができるよう配慮されている。(p. 68, 69)</p> <p>○単元末の学習のまとめにはアクティビティを設け、学習内容の理解を深める主体的・対話的な問いやシンキング・ツールの活用等を促している。(p. 81, 105)</p>	<p>○学習に関連のある話題を取り上げた「地理+α」や、具体的な課題を主体的に調べる「チャレンジ地理」で、興味・関心を持って学習の理解を深めたり広げたりできるよう配慮されている。(p. 21, 151)</p> <p>○単元の最初に写真とともに3択クイズを取り入れ、学習への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 44)</p>	<p>○竹島の地図(位置図)と写真が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国が不法に占拠するまでの経緯、日本が平和的な解決をめざしていることが記述されている。また、「出張竹島展」の写真が掲載し、竹島資料室についても触れられている。(p. 19)</p> <p>○出雲大社、海士町の「島留学」について記載されている。(p. 179, 188)</p>	<p>○単元の最初やページ下に小学校の学習との関連が示され、他分野との関連があるところには、他分野の学習を促したり、振り返ったりする記述がなされている。(p. 1, 2, 166)</p> <p>○それぞれの地域に住んでいる人の話や、巨大地震に備える過疎地域の取組などを取り上げた「自由研究」のコーナーで、学習内容を身近な問題としてとらえられるよう工夫されている。(p. 186, 190)</p>	<p>○地理的な見方・考え方についてイラストを交えて、わかりやすくガイダンスできるよう工夫されている。(巻頭II, III)</p> <p>○「デジタルマーク」の表示してあるページでは、巻頭の二次元コードで関連するサイトや動画などで学習を広げ深められるよう工夫されている。(巻頭VII)</p>	<p>○内容ごとに着目する見方・考え方を掲載した課題を設定し、単元のまとめでは、様々な思考ツールで技能や思考力、判断力・表現力を身に付けることができるよう配慮されている。(p. 188-191)</p> <p>○地球的課題や地域の課題などをコラムで取り上げたり、日本の諸地域をSDGsで振り返ったりするなど、現代的な諸課題を意識して学習を進められるよう配慮されている。(p. 104, 246, 262)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○見開き2ページの本文を囲むようにして写真や資料が掲載され、約半分を占めている。本文の文章は行間が広く読みやすいように配慮されている。</p> <p>○写真や図表などの資料がバランスよく配置され、「スキル・アップ」のコーナーでは、情報を集めたり、読み取ったり、まとめたりする技能が身に付けられるように構成されている。(p. 37)</p>	<p>○各章の導入では、小学校での学習内容が年表中に示され、章のまとめで本章での学習内容を加えて年表が完成するように構成されている。(p. 18, 58)</p> <p>○小学校での学習を振り返る活動を通して、各章や各節、各授業での学習課題を示し、段階を踏みながら単元をまとめることができるよう工夫されている。(p. 19, 59)</p>	<p>○特集ページ「資料から発見」では、絵巻物や屏風絵といった絵画資料から、興味・関心をもってその時代の特徴を読み取れるよう工夫されている。(p. 52, 53)</p> <p>○コラム「もっと歴史」では、琉球文化やアイヌ文化について詳しく紹介され、興味・関心を持って文化の多様性を理解できるよう工夫されている。(p. 90, 91, 140, 141)</p>	<p>○コラム「もっと歴史」では「島根県と神話」を取り上げ、出雲大社とともに出雲神話や佐陀神能について詳しく記述されている。(p. 54)</p> <p>○竹島について「領土をめぐる問題の背景」では、写真や当時の地図を用いて、島根県への編入の経緯が詳しく記述されている。また、韓国による不法占拠や我が国の対応についても記述されている。(p. 178, 180, 259)</p>	<p>○他教科の学習と特に関わりの強い内容には「教科関連マーク」を付し、教科等横断的な視点から学習内容を深められるよう工夫されている。(p. 15)</p> <p>○「歴史にアクセス」や「もっと歴史」のコラムでは、伝統・平和・防災・人権などのマークが示され、社会との関連を意識できるよう工夫されている。(p. 87, 242, 274)</p>	<p>○二次元コードから各時代ごとにまとめられたサイトにアクセスできるようになっている。</p> <p>○特集コーナー「みんなでチャレンジ」では、対話的な活動によって多面的・多角的に考えられるように構成されている。(p. 191)</p>	<p>○章末の「まとめの活動」では、本章の学習内容をくらげチャートやXチャートといった思考ツールを活用して各自でまとめ、時代を大観できるよう工夫されている。(p. 60, 61)</p> <p>○各分野や各教科との連携を意識させる構成となっており、人権問題や平和問題など現在につながる歴史的事象について様々な視点からとらえられるよう工夫されている。</p>
G	<p>○文字の行間に余裕をもたせ読みやすいように工夫され、写真や図表など資料の間隔を開いて余白をもたせ、見やすい構図になるよう工夫されている。</p> <p>○章末の見開き2ページには、時代のつながりや変化を意識できるように、絵画資料とともに学習課題が設けられるなどの工夫がされている。(p. 94, 95)</p>	<p>○各節の導入では、学習課題を示して見通しを持たせ、節のまとめではその課題に対して重要と考えるできごとや言葉を各自が選択し、その理由を説明する活動を取り入れている。(p. 87)</p> <p>○学習のまとめで用いる年表は、見開き2ページで示され、見やすさに配慮され、各自で記入も可能である。(p. 56, 57)</p>	<p>○すごろくにチャレンジやカード作りなど、興味・関心を持って小学校での学習を振り返るよう工夫されている。(p. 2-6)</p> <p>○タイトルの上の部分に時代スケールが設けられ、学習する時代が色で示されている。また、タイトルはその時代の特徴を表す言葉が用いられ、興味・関心を引くものとなっている。</p>	<p>○「銀で結びつく世界」というテーマで石見銀山について取り上げ、貿易において石見銀山の銀がどのような役割を果たしていたのかが説明されている。(p. 106)</p> <p>○竹島について「形づくられる日本」の本文で島根県への編入が記述され、「隣国と向き合うために」というコラムの中で編入の経緯や韓国の不法占拠、日本政府の対応について記述されている。(p. 176, 268)</p>	<p>○「歴史を探ろう」という特集ページでは、14のテーマでリサイクルや政治参加などの視点から当時の様子と現在の暮らしとのつながりを考えられるように構成されている。(p. 140, 141)</p> <p>○「身近な地域の歴史を調べよう」では、図書の分類や意見の共有など、情報を集めたり、まとめたりする活動について詳しく説明されている。(p. 10-16)</p>	<p>○二次元コードから様々なデータベースにアクセスでき、資料や動画などを閲覧できるようになっている。</p> <p>○巻末の「世界地図の歴史」では、歴史上で世界の形がどのように考えられてきたのかについて、興味・関心を引く資料が掲載されている。</p>	<p>○「歴史を探ろう」や「歴史の窓」など学習内容を深めるページを多く取り入れ、多面的・多角的な視点で歴史的事象がとらえられるよう工夫されている。</p> <p>○章末の「時代の変化に注目しよう」では、その時代の特徴を確認するとともに、次の時代での変化について予想する活動を取り入れている。(p. 94, 95)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史的分野） No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
J	<p>○各時代の想像図や世界地図が見開き2ページにわたって大きく掲載されており、学習で活用しやすいよう工夫されている。(p. 80, 81)</p> <p>○各章に配置されているコラム「歴史を探ろう」や特集ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、学習内容を深めたり、違う視点から捉えたりできるよう工夫されている。</p>	<p>○章や節の導入では、学習課題を示して見通しをもたせ、段階的に課題を解決できるようにし、歴史的な見方・考え方を働かせてまとめる構成になっている。</p> <p>○「タイムトラベル」という時代の想像図が章や節の導入に掲載され、時代のイメージをふくらませるとともに、前の時代と比較をしたり、疑問点を発見したりできるよう工夫されている。(p. 80, 81)</p>	<p>○特集ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、「赤穂事件を考察する」など、興味・関心を引く課題を示し、多面的・多角的な視点から自分の意見をまとめられるように構成されている。(p. 144, 145)</p> <p>○世界地図上に想像図や各地域とのつながりを示すことで、興味・関心を持って世界の動きがとらえられるよう工夫されている。(p. 42, 43)</p>	<p>○古代の学習では、「荒神谷遺跡の銅剣」や出雲地方を中心に点在する「四隅突出型墳丘墓」が取り上げられ、国や権力の誕生について記述されている。(p. 27, 32)</p> <p>○竹島について「新たな外交と国境の画定」の本文に島根県への編入が記述されている。また、コラム「日本の領土画定と近隣諸国」で、編入の経緯や韓国への不法占拠などについて記述されている。(p. 179, 267)</p>	<p>○コラム「未来に向けて」では、持続可能な開発目標に関連する内容として、環境や人権といった項目で、未来のために参考となる先人たちの取組が紹介されている。(p. 153)</p> <p>○巻末の「多面的・多角的に構想する」では、歴史の学習を振り返り、現在と未来の日本や世界のあり方について、友達との対話を通して考えられるように構成されている。(p. 286, 287)</p>	<p>○二次元コードからコンテンツごとにまとめられたサイトにアクセスできるようにしている。</p> <p>○ページ右側の年表で学習する時代が確認できるとともに、巻頭や巻末の年表と対応しているため、時代の推移や世界の動きを意識できるよう工夫されている。</p>	<p>○「章の学習を振り返ろう」では、年表や図表を使って課題に対する自分の考えをまとめ、友達との対話を通じて各時代を大観できるように構成されている。(p. 92, 93)</p> <p>○時代の想像図である「タイムトラベル」では、生徒の興味・関心を喚起させるとともに、本文の説明で想像図の位置を示す記号を付し、説明内容と想像図で関連がつかめるよう工夫されている。(p. 80-83)</p>
M	<p>○見開き2ページの写真・図表などの資料数が豊富である。本文での記述内容も多く、歴史的な事象が丁寧に説明されている。</p> <p>○日本史と世界史の年表が各種資料とともに並記され、世界地図も各章や巻末に掲載されるなど、世界の動きと関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 102, 103)</p>	<p>○各授業では、1～2個の学習課題を示して見通しをもたせ、終末の「ステップアップ」では、さらに学習内容を深められるように課題が提示されている。(p. 112, 113)</p> <p>○特集ページ「歴史を考えよう」では、様々な資料を読み取ることで、学習内容についてさらに考えを深めることができるよう工夫されている。(p. 76, 77)</p>	<p>○コラム「地域からのアプローチ」では、特定地域を取り上げ、その時代と関連のある史跡や特産品について、地域的な特徴を踏まえて紹介されている。(p. 58, 59)</p> <p>○世界地図を用いて世界の様子や遺跡などがイラストで示されている。世界全体がどのような発展を遂げているか興味・関心を持って読み取れるよう工夫されている。(p. 110, 111)</p>	<p>○「ヨーロッパ人との出会い」では、石見銀山について、銀山が示された当時の地図や銀の写真が掲載され、当時の海外における銀の需要について説明されている。(p. 113)</p> <p>○コラム「歴史へのアプローチ」では、竹島の島根県への編入と韓国による不法占拠について記述されている。(p. 266, 267)</p>	<p>○主権者の育成という観点から、特集ページ「歴史を考えよう」の中で、普通選挙や日本国憲法について考えられるように構成されている。(p. 228, 229, 260, 261)</p> <p>○コラム「歴史へのアプローチ」では、琉球文化とアイヌ文化が詳しく紹介され、日本における文化の多様性について考えられるように構成されている。(p. 88-91)</p>	<p>○二次元コードから様々なサイトにアクセスでき、デジタル資料や動画、写真などを見ることができる。</p> <p>○「身近な地域を調べよう」では、調査スキルのポイントが項目ごとにまとめてあり、他教科の学習にも活用できるように説明されている。(p. 8-13)</p>	<p>○各章の導入で日本史と世界史の年表を並記したり、各時代の世界の様子を地図とイラストで紹介したりして、世界の動きとの関連を意識できるように構成されている。</p> <p>○章末のまとめでは、地図や図表を活用し、視点を明確にしてまとめ、直接記入ができるよう工夫されている。(p. 152, 153)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
O	<p>○時代ごとの様子がうかがえる資料が多数使用されている。特に文化財に関する資料は多く、複数ページにわたって掲載されている。(p. 98-101)</p> <p>○「先人に学ぶ」や「女性史コラム」など、先人の取組を学ぶことで、これからの生き方について考えることができるコーナーを多数設けている。(p. 154, 155)</p>	<p>○各編の導入には、複数の資料が提示され、前の時代と比較するなどして学習課題を見出せるよう工夫されている。また、各編のめあてが示され、見通しをもって学習に取り組めるように構成されている。(p. 64, 65)</p> <p>○「チャレンジ歴史」など、歴史的事象の考察や対話的な活動を通じて学習を深める特設ページが多く取り入れられている。(p. 216, 217)</p>	<p>○特設ページ「歴史と対話を未来に活かす」では、学習を振り返り未来に向けて考える活動が設けられ、災害・政治参加・世界平和などに興味・関心をもつことができるよう工夫されている。(p. 298-305)</p> <p>○各編の導入の「地図で見る世界の動き」では、世界地図や写真とともに、国の位置や地域とのつながりが示され、興味・関心を高められるように構成されている。(p. 66, 67)</p>	<p>○コラム「地域に学ぶ」では、石見銀山についてヨーロッパの国々に認められ、戦国時代に要所として争われたことが記述されている。(p. 121)</p> <p>○「領土の画定と隣接地域」の本文、年表、地図で竹島の島根県編入について触れられ、特設ページ「冷戦終結後の近隣諸国との関係」で歴史的経緯と現在の状況について記述されている。(p. 192, 193, 292, 293)</p>	<p>○コラム「先人に学ぶ」では、人権保障や世界平和、文化の発展などに取り組んだ先人を紹介し、道徳科などとの関連を図ることができるよう工夫されている。(p. 215)</p> <p>○巻頭ページには、過去と現代の町並みや人々の様子などの資料が掲載されており、学習内容と現代の衣食住に関わる生活とのつながりが分かるように構成されている。</p>	<p>○二次元コードからデジタル資料のあるサイトにアクセスでき、学習内容を深めることができるようになっている。</p> <p>○巻末には「歴史学習の基礎資料」として、絵画資料の見方や土地制度の移り変わり、文化財の種類などについて詳しく紹介されている。</p>	<p>○文化財資料や考古学資料が多数掲載され、資料を比較したり背景を考えたりする活動を通して、多面的・多角的な視点で歴史的事象がとらえられるよう工夫されている。</p> <p>○学習するうえでの手立てとなる「歴史的な見方・考え方」について詳しく説明され、各授業で扱う「見方・考え方」について示されている。(p. 12, 13, 18)</p>
R	<p>○多くの人物が取り上げられ、写真とともに詳しく紹介されている。様々な立場から歴史的な事象を考えられるように配慮されている。(p. 208, 209)</p> <p>○古代の宗教観や神話など、日本の成り立ちについて詳しく紹介されており、古来の見方・考え方について触れることができる。(p. 44, 56, 57)</p>	<p>○各章の導入の「○○の世界へようこそ！」では、見開き2ページの絵画資料に着目して、その時代の特徴や他の時代との違いをとらえ、学習課題を見出せるよう工夫されている。(p. 72, 73)</p> <p>○特集ページ「歴史のターニングポイント」では、各時代を代表する大きなできごとについて詳しく掘り下げて考え、友達との意見交換を通じて理解を深められるよう工夫されている。(p. 150)</p>	<p>○特集ページ「私の博物館をデザインしてみよう」では、自分が芸員になり展示方法を考えることで、興味・関心を持って各時代の特徴がとらえられるよう工夫されている。(p. 151)</p> <p>○各章の導入では「鳥の目」でイラストを、「虫の目」で絵画資料を見て時代を概観し、興味・関心を高めて見方・考え方を働かせるよう工夫されている。(p. 70-73)</p>	<p>○コラム「神話に見るわが国誕生の物語」では、日本の神話について詳しく記述され、その中で出雲大社や島根県の神代神楽が紹介されている。(p. 56, 57)</p> <p>○竹島について「明治初期の外交と国境の画定」の本文に島根県への編入が記述されている。コラム「わが国の領土をめぐる問題の歴史」の中で編入の経緯や韓国の不法占拠などについて記述されている。(p. 183, 267)</p>	<p>○「震災の日本史」が特設ページで設けられ、記憶と教訓から未来をどう生きるかに考えていることができるよう工夫されている。(p. 284, 285)</p> <p>○江戸時代の生活について書かれたコラムの中で、再生・活用の中で、恵や環境に配慮した生活について記述され、現代社会の課題を意識して今後の取組を考えられるように構成されている。(p. 133)</p>	<p>○各章の導入では「歴史ものさし」を使って学習する時代の範囲を確認でき、その時代の船から当時の様子や日本の発展をとらえることができるよう工夫されている。(p. 69)</p> <p>○章末には年表や地図を使った学習のまとめがあり、教科書の最後には歴史学習のまとめができるよう工夫されている。(p. 292, 293)</p>	<p>○人物について「なでしこ日本史」や「人物クローズアップ」で多く取り上げられ、その時代の背景や人々の思いについて知り、様々な視点から歴史をとらえることができるよう工夫されている。(p. 214)</p> <p>○特集ページ「このころの世界は」では、当時の世界の様子について詳しく述べられ、世界の動きと関連付けて学習できるように構成されている。(p. 84, 85)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史的分野） No. 4

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
S	<p>○A4版で写真や図表が大きくて見やすく、実物大の写真資料も掲載されている。また余白が多く、読みやすさに配慮されている。(p. 87)</p> <p>○写真や絵画の資料が数多く掲載され、資料の読み取りとともに、まとめの学習で絵画資料を解説する活動を取り入れている。(p. 85)</p>	<p>○各章の扉のページでは、テーマによって当時の世界の様子がまとめられ、章の学習課題が示されている。(p. 86, 87)</p> <p>○各章のまとめでは、歴史上の人物になってインタビューに答えたり、漫画で時代を表したりするなどの表現活動を通して学習内容を深められるよう工夫されている。(p. 135, 245)</p>	<p>○特集ページ「歴史を体験する」では、火おこしや糸紡ぎなどの体験活動や資料をもとにした対話的な活動が紹介され、興味・関心を喚起して学習を深められるよう工夫されている。(p. 34, 35)</p> <p>○各タイトルページの終末には、興味・関心を高め、学習内容をさらに深めることができるコラムが掲載されている。(p. 47)</p>	<p>○「銀と戦国大名」では、石見銀山の開発と交易、戦国大名の利権争いについて扱われている。また、4章の導入では、世界の様子とともに実物大の石見銀が掲載されている。(p. 82, 87)</p> <p>○竹島について「戦場は中国だった - 日露戦争」の側注で、日本政府が島根県への編入を閣議で決定したことが記述されている。(p. 189)</p>	<p>○「フォーカス」というコーナーが多く設けられ、歴史的背景に着目することで、人権や教育、世界平和などについて考えることができるように構成されている。(p. 270)</p> <p>○現代史のまとめでは、自分の家族の歴史を調べる活動が紹介され、自分や歴史とのつながりを考えられるよう工夫されている。(p. 278, 279)</p>	<p>○縦型の年表が複数ページにわたって掲載され、写真や図表とともに学習の振り返りができるように構成されている。(p. 282-293)</p> <p>○巻頭に世界地図が掲載され、主な史跡や関係都市の位置を確認できるように構成されている。</p>	<p>○写真資料や絵画資料が数多く掲載され、興味・関心を高めるとともに、資料の読み取りについての技能が身に付けられるように構成されている。</p> <p>○各章の扉のページでは、テーマに沿った世界の様子がわかる写真や絵画が掲載され、各地域を比較することで時代の特徴がとらえられるよう工夫されている。(p. 86, 87)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

社会（公民的分野） No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○図表、写真等の資料が多く掲載され、資料の活用の視点が示されるなど、資料をもとに社会的事象について考えるための工夫がされている。(p. 18, 19)</p> <p>○「スキル・アップ」で公民学習をすすめる上での基礎的・基本的な技能の身に付け方が示され、「まとめの活動」などでは複数の思考ツールを用いた整理の仕方が示されている。(p. 45, 70, 71)</p>	<p>○各章ともはじめに単元の学習を貫く「探究の課題」を設定し、節ごとの「探究のステップ」や最後の「まとめの活動」を解決しながら「探究課題」にせまる単元構成となっている。(p. 6, 7, 32, 34, 35)</p> <p>○見開きページは、追究のきっかけとなる資料や学習課題が示され、学習の最後にはチェック&amp;トライの二段階で内容の定着を図る構成となっている。(p. 8, 9)</p>	<p>○各章の導入では、市長の選出やコンビニの経営などをシミュレーションを通して学ぶことで、興味・関心を高める工夫がされている。(p. 76, 77)</p> <p>○本文に関連する内容を取り上げる「公民にアクセス」や、仕事やボランティアに携わる人のインタビューコーナーで、内容への理解を深め、関心が高まるよう工夫されている。(p. 19, 67)</p>	<p>○竹島問題について、領土をめぐる問題の特設ページにて、写真や新聞記事などをつけて、領土問題の経緯や我が国の外交努力に加え、島根県による「竹島の日」制定について記述されている。(p. 184)</p> <p>○成年年齢が18歳に引き下げられることに向けて、「18歳へのステップ」として選挙と契約について取り上げ、意識が高まるよう工夫されている。(p. 88, 89, 136, 137)</p>	<p>○「みんなでチャレンジ」のコーナーが21カ所あり、個人やグループで作業や話し合い活動を行い、本文での学習を深められるよう工夫されている。(p. 9)</p> <p>○終章では、社会の課題を解決するために「自分にできること」を提案するレポート作成を通して、社会参画を促している。(p. 213-219)</p>	<p>○見方・考え方を活用して考察するコーナーを設け、学習を深める工夫がされている。(p. 20)</p> <p>○二次元コードによって、学習に役立つリンク集となったり、シミュレーションなどが行えたりするよう工夫されている。(p. 5, 81)</p>	<p>○各章のはじめでは、疑問に思ったことを問いの形で整理し、それを探究のステップとして追究する構成となっている。(p. 4, 5, 7)</p> <p>○個人やグループで取り組む作業や活動が随所にあり、技能や思考・判断・表現などの力が付くよう工夫されている。(p. 9, 45)</p>
G	<p>○図表、写真等の資料が多く掲載され、用語や本文の解説が側注でなされるなど、生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。(p. 40, 41)</p> <p>○「公民にアプローチ」では情報の活用の仕方が示され、「公民の技」では公民学習で身に付けたい技能や表現が示されている。(p. 6-9, 33)</p>	<p>○各章ともはじめに学習テーマや「見方・考え方」を提示し、章末で、ステップ1、2、3と三段階の課題で振り返る構成となっている。(p. 12, 13, 34-36)</p> <p>○見開きページは、学習のきっかけとなる資料や学習課題が示され、最後には「確認と表現」の二段階で学習内容の定着を図る構成となっている。(p. 14, 15)</p>	<p>○各章の導入では、「現代の社会ってどんな社会だろう」や「地方議会ウォッチングに行こう」などで中学生が学ぶ姿を取り上げ、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 12, 13)</p> <p>○学習に関連したコラム「公民の窓」や、人物の姿を中心とした「クリップ」で、興味・関心が広がるよう工夫されている。(p. 27, 43)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「韓国政府は領土問題の存在を否定」と本文に記載され、竹島の写真と解説も掲載されている。(p. 197)</p> <p>○大田市の中村ブレイスや浜田市のワゴン車による「移動期日前投票所」の資料が取り上げられ、働くことや選挙について考えさせる内容となっている。(p. 89, 189)</p>	<p>○「言葉で伝えあおう」では、裁判員裁判のシミュレーションやまちづくりのプレゼンテーションなどを通じて、本文の学習を深められるよう工夫されている。(p. 110, 111, 122, 123)</p> <p>○終章では、SDGsの視点をもって地球規模の課題と向き合い、解決を探る「私の提案」を作成することで、社会参画を促している。(p. 227-235)</p>	<p>○ノートのとおり方について取り上げ、気になったこと、さらに調べたいこと、疑問など、自学の視点が示してある。(巻頭IV)</p> <p>○「教科の使い方」で、二次元コードによって、学習に役立つさまざまな情報とつながるよう工夫されている。(p. 5)</p>	<p>○公民で意識したい学び方を示し、メディアの情報活用については、特設ページを設けたり、「クリティカル・シンキング」について具体例をもとに考えさせたりしている。(巻頭III、p. 6-9, 95)</p> <p>○内容のまとめでは、学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、説明したりする振り返りが、毎時間できるよう工夫されている。(p. 15)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

社会（公民的分野） No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
J	<p>○図表、写真等の資料が多く掲載され、資料活用のポイントを示したり、難しい語句については同ページに「解説」を設けたりするなどの配慮がされている。(p. 3, 4, 69)</p> <p>○「技能をみがく」では、公民学習を進める上での基礎的な技能として、新聞の活用の仕方や思考ツールを用いた整理の仕方などが示されている。(p. 71, 72, 103)</p>	<p>○章のはじめに「章の問い」を提示し、章末のまとめで、意見の整理や意見交換などの三段階の活動を通して「章の問い」を考える構成となっている。(p. 3, 16)</p> <p>○見開きページは、最初に追究のきっかけとなる資料や学習課題が示され、学習の最後には「確認」と「説明」で内容の定着を図る構成となっている。(p. 3, 4)</p>	<p>○各部の導入では、学習内容に関するイラストが描かれ、随時イラストを振り返ることで、具体的にイメージして考えることができるようになっている。(p. 1, 2, 4)</p> <p>○「公民プラス」や「先輩たちの選択」では、身近な実社会の動きを取り上げ、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 4, 13, 14)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判に委ねよう」と提案」と本文に記述され、側注では、編入の経緯などが記述されている。(p. 175, 176)</p> <p>○「よりよい社会を目指して」では、人権尊重や自然環境保護といった課題や解決に向けた取組を取り上げることで社会参画を促している。(p. 49, 50, 197, 198)</p>	<p>○「アクティブ公民」では、実際の生活に即した課題について話し合ったり、選択・判断に取り組んだりして、本文での学習を深められるよう工夫されている。(p. 163, 164)</p> <p>○各章末に第4部第2章でのレポート作成のための視点が示されており、レポート作成を進めやすい配慮がなされている。(p. 106, 203-210)</p>	<p>○単元「企業と経済」では、「パン屋を起業しよう」が設定され、より自分ごととして課題に取り組める工夫がされている。(p. 127-144)</p> <p>○二次元コードによって、学習の理解を助ける動画などのコンテンツにつながるよう工夫されている。(巻頭4, p. 3)</p>	<p>○各部に設けられたイラストを、学習途中や学習後に随時振り返ったり、単元を通したシミュレーション「パン屋を起業」を設定したりするなど、内容のまとまりで学習が深まるよう工夫されている。(p. 1, 2, 4)</p> <p>○地震や豪雨などの自然災害を資料や課題として取り上げ、防災について考えが深まるよう工夫されている。(巻頭1, 2, 4, 17, 141)</p>
O	<p>○図表、写真、統計資料などが多く掲載され、複数の資料をもとに社会的事象について考えるための工夫がされている。(p. 8, 9)</p> <p>○公民学習を進める上で、統計資料や新聞を活用する情報スキルや、様々な思考ツールを用いた整理の仕方が身に付けられるよう配慮されている。(p. 16, 77)</p>	<p>○見開きページには、学習のきっかけとなる資料、学習課題と主な「見方・考え方」が示され、学習の最後には理解を確かなものにするための問いが示されている。(p. 10, 11)</p> <p>○「学習の整理と活用」では、語句の整理を行って知識の定着を図ったりニュースから考察したりする活動が工夫されている。(p. 76, 77)</p>	<p>○各編の導入に漫画を用いて課題を考える活動が設定され、学習内容の見通しや興味・関心を持つよう工夫されている。(p. 6, 7)</p> <p>○「公民+α」「明日に向かって」「チャレンジ公民」では、最近の話題や身近な話題を学習内容に沿って取り上げ、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 11, 50, 74)</p>	<p>○竹島問題について、「日本の固有の領土」「不法に占拠」と本文に記述され、領土をめぐる特設ページでは、竹島をめぐる歴史的背景が記述され、島根県の竹島資料室の写真が掲載されている。(p. 182, 184)</p> <p>○「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方を具体的な事例を通して学べるようにしている。(p. 26-30)</p>	<p>○38カ所の「アクティビティ」では、「見方・考え方」などを用いて考察したり話し合ったりして、学習が深まるよう工夫されている。(p. 29)</p> <p>○終章では、持続可能な社会の実現を目指すレポート作成に向け、課題例や作成のポイント、発表方法まで具体例をあげている。(p. 212-220)</p>	<p>○「バリアフリー」のページでは、実際に点字が載せてあり、実感をもって理解できるよう工夫されている。(p. 50)</p> <p>○二次元コードによって、学習に役立つ情報や資料とつながるよう工夫されている。(p. 5)</p>	<p>○各編や各時で、課題解決の手がかりとなったり、理解を深めたりする主な「見方・考え方」を提示している。(p. 123, 124)</p> <p>○「アクティビティ」「チャレンジ公民」「明日に向かって」「公民+α」など、本文に関連した資料、補足コラムの情報を豊富に配置している。(p. 11, 29, 50, 74)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
Q	<p>○見開きページあたりの写真や資料が精選され、大きく掲載されている。また、理解が難しい用語や文章は、そのページで詳しい側注解説がなされている。(p. 3, 11)</p> <p>○「アクティブに深めよう」では、意見の整理の仕方や新聞の見方など、公民学習を進める上での技能が身に付けられるよう配慮されている。(p. 41, 94, 95)</p>	<p>○見開きページには、学習のきっかけや追究の中心となる資料、学習課題が示され、学習後には、「ここがポイント」として内容のまとめが示されている。(p. 2, 3)</p> <p>○章末の「学習のまとめと発展」では、重要語句を確認し、字数制限を付けて課題をまとめるといった二段階で学習を振り返る工夫がされている。(p. 42)</p>	<p>○「ミニ知識」や「もっと知りたい」で学習に関連した内容を資料をもとに解説することで興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 13, 56)</p> <p>○学習を深めるために、内容に関連した歴史上の人物や著名人が写真や説明で取り上げられている。(p. 55)</p>	<p>○竹島問題について、本文中だけでなく1ページにわたる特設を設け、竹島問題の経緯や国際司法裁判所への提訴についても記述されている。(p. 167, 170, 171)</p> <p>○2016年の参議院選挙から合区が採用されたことと特定枠について側注解説で扱い、より良い選挙制度について問題提起をしている。(p. 89)</p>	<p>○「やってみよう」では、裁判の傍聴の提案や、タウンページを利用した作業の提案など、学習内容と社会生活を関連付け、理解を深められるよう工夫されている。(p. 109, 137)</p> <p>○終章では、卒業論文やディベートについて記載があり、特にディベートについては実践例を示し、取り組みやすくなるよう工夫されている。(p. 214-224)</p>	<p>○全72単元が連番で示してあり、学習の進度を把握しやすくなっている。</p> <p>○巻頭やコラム「もっと知りたい」では、日本の技術や伝統・文化について紹介し、これらに気付き誇りに思えるようにしている。(巻頭 i - iii、p. 14-21)</p>	<p>○随所で、日本の技術や伝統・文化について紹介され、また本文の内容に関連した歴史上の人物や著名人が写真や説明で取り上げられている。(巻頭 i - iii, p. 55)</p> <p>○章末のまとめや、「アクティブに深めよう」では、400字~600字で課題についてまとめる発展的な学習が設定されている。(p. 42, 161)</p>
R	<p>○図表、写真等の資料が多く掲載され、学習内容に関連した条文や法令、条約、または側注解説を載せ、生徒の理解を促している。(p. 26, 50, 55)</p> <p>○「スキルアップ」では新聞の社説を比べたディベートや思考ツールを用いた情報の整理など、公民学習の基礎的な技能が身に付けられるように配慮されている。(p. 87, 112, 113)</p>	<p>○章のはじめにある「入り口」で、その章を貫く課題に取り組む、章末では章で学んできた内容を生かして取り組む課題が設定されている。(p. 36, 37, 72, 73)</p> <p>○毎時間の学習のまとめでは、学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、因果関係を説明することで学習を深めたりできるよう工夫されている。(p. 19, 45)</p>	<p>○各章のはじめにある「入り口」では、市議員やコンビニの経営者になって課題を考えたり話しあったりすることで、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 76, 77)</p> <p>○「学習を深めよう」で本文で説明したことをより詳しく説明したり、関連する情報を紹介したりして、学習内容を深める工夫がされている。(p. 11)</p>	<p>○竹島問題について、特設ページを設け、竹島に関する歴史的経緯や、「于山島」をめぐる日本と韓国の主張を韓国での地図も交えて掲載している。(p. 186, 189)</p> <p>○現代社会の課題として、「情報化」について詳しく取り上げ、持続可能な社会に向けて幅広く考えることができる工夫がされている。(p. 131, 145)</p>	<p>○「やってみよう」では、裁判のシミュレーションなど個人や班で取り組む作業や活動を通して、本文の学習を深められるよう工夫されている。(p. 102)</p> <p>○最終の「社会科のまとめ」では、持続可能な社会を築く観点から、内閣総理大臣として政策提案のレポート作成を例示している。(p. 204-209)</p>	<p>○巻頭や巻末でSDGsについて取り上げ、最終のレポート作成まで関連付けたり、Society5.0について取り上げたりしている。(巻頭1, 2, 巻末1, 2, p. 199)</p> <p>○日本の伝統文化について、身近な祭りを調べるなど、その良さに気付くよう工夫されている。(p. 24, 25)</p>	<p>○巻頭の「なぜ公民を学ぶのか」では、現在の自分からの過去・現在・未来を考えさせ、公民学習と自分との関わりについて意識できるようにしている。(巻頭3, p. 1, 2)</p> <p>○日本の祭りや伝統文化の特設ページを設けたり、「学習を深めよう」で日本の習慣を取り上げたりして、日本の良さに気付くよう工夫されている。(p. 24, 25, 161, 学習資料p. 210, 211)</p>



選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○A B判192ページで、UDフォントを使用し、地図や資料ともに明るい彩色を採用している。</p> <p>○縦見開きで地球儀を3分割した地図があり、世界の位置関係をとらえやすいよう工夫されている。(p. 29, 61, 67)</p>	<p>○一般地図、土地利用図や断面図、地域の特色を追究するためのテーマ資料の順で配列されており、検索しやすいよう構成されている。</p> <p>○「ジャンプ」マークを設け、1つの資料を他のページの資料と関連付けて考えられるよう構成されている。(p. 94, 161)</p>	<p>○タイトル枠の下部に「各地域で注目したい記号」を示し、キャラクターの吹き出しで課題を示すなど、学習のポイントに着目させる工夫がある。(p. 45)</p> <p>○ワールドカップやオリンピック開催国の分布、都道府県の産品とお国自慢の資料などが示してあり、学習の動機付けとして活用できるよう工夫されている。(p. 22, 165, 188)</p>	<p>○中国地方では、竹島の拡大図が掲載され、日本周辺地図では、航空写真と共に日本固有の領土であることや領土問題に関する記述がある。(p. 97, 190)</p> <p>○「テーマ資料」では各地域ごとに、複数の分布図やグラフの他に、豊富な写真により学習課題を追究できるよう工夫されている。(p. 36-38)</p>	<p>○巻頭でSDGs特集を取り上げ、現代社会の諸課題への理解を深められるよう複数の資料が示されている。(p. 7-14)</p> <p>○各地域の地図を示す前に、世界全体の地理的な特色のページが設けられ、現代社会の諸課題に関する追究に活用しやすいよう工夫されている。(p. 15-28)</p>	<p>○Dマークの示す箇所では、巻頭の二次元コードからインターネットに接続すると様々な関連情報を閲覧できる。(p. 34)</p> <p>○「テーマ資料」の後には、その地域に関連する歴史的及び公民的分野の内容の写真や分布図などが配置されている。(p. 66, 95, 96, 131, 132)</p>	<p>○地形図に加え、3分野全てに関連する資料が掲載され、課題の発見や追究に活用しやすいよう工夫されている。(p. 21, 39, 95, 131)</p> <p>○現代社会の課題であるSDGsを大きく取り上げ、その解決を考えたり、課題を追究したりする上で必要な知識や技能の習得を目指した構成となっている。(p. 7-14)</p>
J	<p>○A版188ページで、大きな紙面から情報を読み取りやすい。UDフォントや縁取り文字を使用し、濃淡がはっきりした彩色を採用している。</p> <p>○小学校で身に付けた技能を生かせるよう、「地図の使い方」が具体的に示されている。(P. 5-8)</p>	<p>○各地域の同一ページ内の資料図は同縮尺で示され、比較したり関連付けながら考察したりしやすい工夫がされている。(p. 27, 28)</p> <p>○日本を扱うページは、一般地図、資料図に続き、歴史、産業、防災等学習課題を追究するための資料が掲載されている。(p. 107, 108)</p>	<p>○立体的かつイラストを配した鳥瞰図により、地域的な特色や人々の生活などをとらえやすいよう工夫されている。(P. 31, 32, 88)</p> <p>○世界の生活・文化について、イラストや写真を豊富に用いて、違いが分かりやすいよう工夫されている。(p. 15-18)</p>	<p>○竹島の標高色別の拡大図や航空写真が掲載され、領土問題に関する記述がある。また朝鮮半島の大判地図や日本列島の折り込み判地図は大きく、位置や距離が掴みやすいよう工夫されている。(p. 30, 80, 89)</p> <p>○二次元コードから、学習内容に関わる多くの資料が閲覧でき、家庭学習でも利用できる。(p. 5, 19, 167)</p>	<p>○防災・環境の資料が日本の全ての地域の資料図に掲載され、身の周りの生活における防災意識や関心が高まるよう工夫されている。(p. 108, 149)</p> <p>○世界の全ての地域の資料に「日本との結びつき」を取り上げ、各地域と日本との関係について追究しやすいよう工夫されている。(p. 44)</p>	<p>○ページタイトルの横に二次元コードが掲載されており、豊富なデジタルコンテンツを利用して学習を深めることができる。(p. 45)</p> <p>○「地図活用」のコーナーが複数設けられており、具体的な問いにより地図や資料を読み取る視点が示されている。(p. 49, 105)</p>	<p>○「地図活用」や「学習課題」コーナーを設けたり、二次元コードによる豊富な資料を閲覧できるようにしたりすることにより、授業でも家庭学習でも主体的に地図帳を活用できるよう工夫されている。(p. 22, 57, 151)</p> <p>○地図ページは表示が大きく、標高の高低差の配色が鮮やかで、違いがわかりやすいよう工夫されている。(p. 109)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○1年は、0章があり、算数で学習した内容を取り上げて、数学での学習の進め方、ノート作り方を示し、中学校の学習がスムーズに進められるよう配慮されている。(1年p. 9-16)</p> <p>○章末の問題には、活用の問題も含まれており、巻末には補充問題があり、個に応じて取り組むことができるよう工夫されている。(3年p. 162-164, 248, 249)</p>	<p>○「文字と式」では、等式と不等式をまとめて扱っており、違いを意識しながら正しく理解できるように工夫されている。(1年p. 84, 85)</p> <p>○「平行と合同」の導入では、多角形の角の和の説明から学習を始めており、あることがらをもとに新しい性質を導くという筋道を立ててことばを説明することに意識を向けさせる工夫がされている。(2年p. 98-100)</p>	<p>○章の扉には、身近な場面がイラストで提示され、問いを投げかける吹き出しや章のめあても示されており、生徒の興味・関心を高め、主体的な学びになるよう工夫されている。(3年p. 127)</p> <p>○巻末の「数学の自由研究」では、自ら進んで考えたり調べたりする課題が載せられており、興味・関心をもって思考力・判断力・表現力を高めることができるよう工夫されている。(2年p. 199-208)</p>	<p>○章に入る前に「大切にした数学の学び方」で、「深い学び」のページの学び方を具体的に示している。(全学年p. 6, 7)</p> <p>○巻末の章末問題の解答には「考え方」や「説明のポイント」などが書かれており、生徒が自分で学習を進めることができるよう工夫されている。(2年p. 226)</p>	<p>○「学びを広げよう」では、数学を社会で活用している人をインタビュー形式で紹介し、それに関わる課題を載せている。(1年p. 182, 183)</p> <p>○他教科と関連のある題材には、教科関連マークをつけ、教科のつながりが意識できるよう工夫されている。(1年p. 109)</p>	<p>○巻末の「さくいん」では、数学用語の説明を図を使って表している。(2年p. 237, 238)</p> <p>○各章にめあてとなるタイトルをつけ、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 113)</p>	<p>○活用問題を取り扱う節では、導入時に問題発見・解決の過程を重視した数学的活動を例示し、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている。(2年p. 83, 84)</p> <p>○章末の活用の問題は、写真を取り入れて提示し、日常生活との関連を意識しやすいよう工夫されている。(3年p. 208)</p>
B	<p>○章の中でページの右端に「プラス・ワン」として補充問題が示されており、個に応じた学習ができるよう工夫されている。(2年p. 21)</p> <p>○1つの小節は、「考えよう」で課題提示、「めあて」、「活動」という流れで、基本的に見開き2ページの構成となっており、見通しをもって取り組めるよう工夫されている。(3年p. 104)</p>	<p>○1年1章を「数の世界のひろがり」と設定し、素数や素因数分解について学んだあと「正の数・負の数」の学習へつながるよう内容配列が工夫されている。(1年p. 12-19)</p> <p>○2年2章連立方程式では、加減法と代入法のどちらの考え方からでも学習できる構成になっている。(2年p. 45)</p>	<p>○章末には「活用・探究」を設け、学習した内容を身近な場面で活用したり発展させたりする問題や興味・関心を高めるよう工夫されている。(2年p. 132)</p> <p>○漫画の一場面を載せ、興味をもたせる導入になっている。(1年p. 164)</p>	<p>○本文中には「伝えよう」や「判断しよう」という問題(Q)があり、意味理解が深まるよう工夫されている。(2年p. 32, 75)</p> <p>○数学的な見方・考え方を働かせて学習できるよう、巻頭に数学的な見方・考え方が具体例を添えて掲載されている。(全学年p. 9)</p>	<p>○数学と他教科や実生活とのつながりが理解できるように巻末の「MATHFUL」では、数学に関する読み物を載せている。(3年p. 242-253)</p> <p>○「社会にリンク」では、仕事の中で数学を役立てている人へのインタビューを載せている。(3年p. 135など)</p>	<p>○3年の巻末に、既習事項が高等学校数学とどのようにつながるのかわかるように、系統性を示している。(3年p. 276, 277)</p> <p>○付録に「1年のまとめ」「2年のまとめ」がついており、切り取って次の学年で使えるよう工夫されている。(1, 2年付録p. 1-4)</p>	<p>○問題発見から解決までの学習の進め方が示されており、その流れで学習を進める課題があり、各学年の利用の節にあり、主体的・対話的で深い学びになるよう工夫されている。(1年p. 7-9, 231, 232)</p> <p>○章の扉にある課題は、実生活に即した問題を取り上げており、数学と実生活との関連が意識できるよう工夫されている。(1年p. 124, 125)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
E	<p>○関連する小学校の内容や前学年の内容を「ふりかえり」として載せ、学習がスムーズに進めることができるよう配慮されている。(2年p. 69)</p> <p>○章末の確認問題を基本、応用、活用と分けたり、巻末に復習問題や総合問題を取り上げたりすることで、個に応じて学習できるよう工夫されている。(3年p. 39-41, 268-283)</p>	<p>○「平面図形」では、「いろいろな角度の作図」として、90°の作図を考え、その後、角度に注目して基本の作図を学習するように構成されている。(1年p. 168-176)</p> <p>○基本の作図を学習した後、「平行線と面積」を扱っている。(1年p. 177, 178)</p>	<p>○本文中の「Tea Break」では、数学用語について詳しく解説し、興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(1年p. 101)</p> <p>○立体の投影図、多角形の外角の和、三平方の定理の証明ではページの右上に関連する図を載せ、興味・関心を高めるよう工夫されている。(1年p. 199-219)</p>	<p>○1年間の学習を振り返り、数学を考える際に有効な考え方をまとめている。(1年p. 262, 263)</p> <p>○章の学習後「できるようになったこと」を具体的にチェックする欄や「さらに学んでみたいこと」を書く欄が設けられており、学びを振り返ることができるよう工夫されている。(1年p. 163)</p>	<p>○各学年でSDGsが取り上げられており、数学を活用して社会的な課題や環境問題に取り組む例がグローバルな視点で示されている。(2年p. 216-218)</p> <p>○全学年の最初に「数学の力」というページを設け、数学を活用して社会で活躍している人のインタビュー記事を取扱っている。</p>	<p>○全学年、巻末にはプログラミングを体験できる学習内容が載せられている。</p> <p>○全学年巻末付録としてホワイトボード用のペンで書いて消せるアイデアボードが付いている。</p>	<p>○「どんなことがわかったかな」をまとめた後、さらに考えてみたいことや新たに見つけた疑問につながるように「次の課題へ！」が設けられている。(3年p. 27)</p> <p>○導入問題であるQに「見方・考え方」を設定し、考える際の重要な視点を示している。(3年p. 46)</p>
G	<p>○章の前には「～を学習する前に」が設けられ、既習事項の確認とこれからの学習への準備ができるよう工夫されている。(2年p. 42)</p> <p>○章末には「学習のまとめ」が設けられ、章で学習したことの要点が簡潔にまとめられており、その後で活用問題も含めた章末の問題に取り組むことができるよう配慮されている。(2年p. 37-39)</p>	<p>○1年は、1章「整数の性質」を設け、素数と素因数分解について扱い、数の見方を広げたうえで、2章「正の数・負の数」につなげている。(1年p. 13-22)</p> <p>○箱ひげ図と折れ線グラフを対比させ、それぞれのグラフの有用性について考察する機会を設けている。(2年p. 211, 212)</p>	<p>○本文右端に「数学メモ」として学習に関連する話題が載せてあり、学習への興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(2年p. 147)</p> <p>○「学びのマップ」が設けられ、必要に応じて前学年の学習を振り返りながら学習を進めることができるよう配慮されている。(3年p. 240-251)</p>	<p>○各学年、第1章を終えたところで、ノートの効果的な活用例を示し、家庭学習で学ぶことができるよう工夫されている。(3年p. 44, 45)</p> <p>○「みんなに説明しよう」の問があり、自分の言葉で違いや気づいたことを説明することで、理解をより深めることができるよう配慮されている。(3年p. 85)</p>	<p>○「数学の広場」では、数学が日常生活や他教科の学習に活用されていることがわかるコラムやインタビューが掲載されている。(3年p. 254, 258)</p> <p>○さくいんでは、数学用語の英語表記が併記され、グローバル社会に対応できるよう工夫されている。(3年p. 291)</p>	<p>○「数学的な考え方」がまとめてあり、折り込み部分はどのページを学習していても参照することができるよう工夫されている。(1年p. 8-12)</p> <p>○「正の数・負の数」で魔方陣についての紹介として安野光雅美術館の作品が掲載されている。(1年p. 45)</p>	<p>○ページの右側に脚注をつけ、数学的な考え方や補充問題の掲載ページなどを載せ、主体的な学びになるように配慮されている。(1年p. 52, 53)</p> <p>○章の扉のあと見開き2ページには、イラストや写真を用いた「Let's Try」があり、そこで身近な場面設定の課題が提示され、その課題をもとに学習が展開されるような構成になっている。(1年p. 168, 169)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
L	<p>○章末の問題「学びをたしかめよう」では、「～を理解していますか。」ということばが示されており、学習したことを振り返ることができるよう配慮されている。(3年 p. 156, 157)</p> <p>○裏表紙からはじまる「自分から学ぼう編」にある「学びのあしあと」では、学習の記録ができるよう工夫されている。</p>	<p>○身の回りの問題を図形の学習内容を利用して解決することで、学習と実生活がつながることを実感できるよう工夫されている。(2年 p. 152, 153)</p> <p>○箱ひげ図の長所と短所の両面が紹介されており、有用性についてより把握できるよう工夫されている。(2年 p. 178, 183)</p>	<p>○「数学ライブラリー」では、その章で学んだことに関連する話題を取り上げ、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(3年 p. 85)</p> <p>○生徒が解決の見通しをもって取り組めるよう、キャラクターの吹き出しを用いて、本文を補ったり、生徒に気付きを促したりしている。(1年 p. 74)</p>	<p>○問題の後に、?マークで問題をひろげたり、深めたりする視点を示し、自分から問題を生み出す力を身に付けることができるよう工夫されている。(2年 p. 104)</p> <p>○ページ下部分に、学習場面で用いた数学的な見方・考え方を示し、その視点で学習を振り返ることができるよう工夫されている。(1年 p. 134)</p>	<p>○裏表紙からはじまる「自分から学ぼう編」にある「学びをいかそう」では、実生活や他教科に関連した問題が扱われている。(1年裏から p. 27-56)</p> <p>○「学びのあしあと」では、章で働かせた数学的な見方・考え方を1つ取り上げ、数学の世界だけでなく、身の周りの場面でも役立つことができるよう工夫されている。(1年裏 p. 4-6)</p>	<p>○二次元コードが書いてあるページでは、動画やシュミレーションだけでなく、章末問題においてはヒントや解答が示してある。(1年 p. 177)</p> <p>○「式の計算」で長さを表すものの一つとして、特急サンライズ出雲の写真と営業距離が掲載されている。(2年 p. 11)</p>	<p>○表表紙の「みんなで学ぼう編」から学習を進め、裏表紙からの「自分から学ぼう編」で学びの記録を残したり学んだことを深めたりすることができるよう構成されている。</p> <p>○章の後半には「～の利用」が設けられ、問題発見から解決までの展開をつくっていく活動が取り入れられている。(3年 p. 79-81)</p>
N	<p>○アルファベットの斜めの書体の表が載せてあり、文字と式の学習がスムーズに進められるよう配慮されている。(1年 p. 63)</p> <p>○章の前には、「～の学習の前には（ふりかえり）」があり、確認しておきたい既習事項を振り返ることで、学習をスムーズに進めることができるよう配慮されている。(3年 p. 128)</p>	<p>○「おうぎ形の弧の長さ」と面積は「空間図形」の中で、円錐の展開図と関連させて扱い、おうぎ形で学習しやすくなるよう工夫されている。(1年 p. 210-215)</p> <p>○証明のしくみをまとめたページを見開きで設け、例を示しながらその手順を理解できるよう工夫されている。(2年 p. 130, 131)</p>	<p>○章のはじめには、実生活の中にある写真やイラストとそれに関連した疑問が吹き出しで掲載され、これから始まる学習への興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(1年 p. 157)</p> <p>○作図では、ゲームの場面を設定し、巻末の付録も使いながら、操作活動を入れて楽しみながら取り組めるよう工夫されている。(1年 p. 168, 169)</p>	<p>○裏表紙に「学びの自己評価」を載せ、数学の学習全体を通して大事にしたいことを確認できるよう工夫されている。</p> <p>○Noteには、数学特有の書き方など、ノートを取るときの具体的な注意点が書かれている。(1年 p. 129)</p>	<p>○「さがしてみよう」「やってみよう」など章の内容に関連する活動を取り上げ、数学の学びが実生活につながるよう工夫されている。(3年 p. 284-291)</p> <p>○巻末の「数学旅行」では、実生活や他教科、歴史などに関する内容を取り上げ、数学の有用性を感じることができるよう工夫されている。(3年 p. 233-242)</p>	<p>○巻末では、領域ごとに内容のまとめが掲載されており、学びの連続性を確認することができる。(3年 p. 284-291)</p> <p>○「一次関数」では、ダイアグラムの学習の中で、山陰本線の写真が掲載されている。(2年 p. 101)</p>	<p>○全学年に別冊「探究ノート」がついており、本冊を学んでから内容を深めたり総合的に活用できる問題に取り組んだりすることができるよう工夫されている。(2年 p. 31)</p> <p>○数学的活動を意図した場面には、数学的な見方・考え方を働かせながら解決に向かう姿を対話形式でイラストで掲載し、様々な考え方を知ることができるよう工夫されている。(2年 p. 116)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
○	<p>○見開き2ページを1つの小節とし、学習のめあてを簡潔に示し、見通しをもって学習できるように工夫されている。(3年P18, 19)</p> <p>○各章の前に「次の章を学ぶ前に」の問題があり、既習事項の確認と次の学習への準備ができるよう配慮されている。(2年p. 35)</p>	<p>○「データの分布と確率」では、データを捉える一つの方法として確率を考えることもできるように工夫されている。(2年p. 162-190)</p> <p>○折り込みページにデータを掲載し、それを開いて学習することで、後のページの学習で活用しやすいよう工夫されている。(1年p. 227)</p>	<p>○「数学のたんけん」では、学んだ内容に関連した話題を載せ、知識を補充しながら興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(3年p. 183)</p> <p>○巻末の「ステップアップ」では、例題、解答例とその解説、さらに例題の考え方を生かして解決する問題が掲載され、生徒が自分で学習を進めることができるよう工夫されている。(3年p. 250, 251)</p>	<p>○「証明の方針」を掲載し、証明の見通しをもてるよう工夫されている。(3年p. 34)</p> <p>○「誤答に注意」で誤答を取り上げたり、「まちがえやすい問題」でしっかり考えさせたりすることで、理解がより深められるよう工夫されている。(1年p. 49, 147)</p>	<p>○「身近なことがら」という小見出しがついており、学んだことと社会の関連性がわかるよう工夫されている。(1年p. 157)</p> <p>○巻末に「プログラムと数学」を設けてあり、プログラミング的思考の育成にも配慮されている。(2年p. 204, 205)</p>	<p>○「WEBマーク」があるページでは関連したデジタル資料がある。(1年p. 35)</p> <p>○「方程式」の速さの問題で、隠岐郡のフェリーの写真が掲載されている。(1年p. 122)</p>	<p>○切り取ってノートに貼ることもできる「対話シート」が付録で添付されており、対話的に学習を深めることができるよう工夫されている。(1年p. 58, 59)</p> <p>○学習過程で働かせる数学的な見方・考え方を「大切な見方・考え方」として本文右に示すことで、意識して繰り返し働かせることができるよう工夫されている。(3年p. 105)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○1ページに観察・実験の手順（目的・方法・結果の見方・考察のポイント）がまとめて示してあり、見通しを持って観察・実験ができるよう工夫されている。（1年p.111）</p> <p>○発展的な内容については、高等学校との関連を示し、過度な負担にならないよう配慮されている。（3年p.57）</p>	<p>○節ごとに、問題発見から分析解釈までの流れが統一され、見開きごとに授業1時間の内容が書かれているため、使いやすい構成となっている。（2年p.22,23）</p> <p>○章の始めと終わりに「Before&amp;After」があり、目的意識をもって学習に取り組み、学習したことの振り返りができるよう構成されている。（3年p.11,28）</p>	<p>○巻頭や単元の始めなどに、鮮明な写真を掲載し、生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。</p> <p>○科学史における重要な人物や発見を漫画にして掲載し、興味・関心を高めたり、理解を深めたりすることができるよう工夫されている。（1年p.60）</p>	<p>○自分の考えを文章で書いて表現する活動が多く取り入れてある。「ノートに書いてほかの人と比べよう」等の表記もあり、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることができるよう配慮されている。（3年p.33）</p> <p>○つまずきやすい内容について「例題・練習・確認」の問題やデジタルコンテンツが用意され理解しやすいよう工夫されている。（1年p.109）</p>	<p>○コラム「科学の本だな」があり、興味や関心を持った生徒がさらに学びを深めることができるよう配慮されている。（1年p.141）</p> <p>○導入で日常的に目にする現象を多く取り上げるとともに、随所にある「つながる科学」で、日常生活や社会との関連を持たせることができるよう工夫されている。（3年p.39）</p>	<p>○Dマークを設け、学習を補完するデジタルコンテンツや学習を深めるWebサイトへリンクできるようにしている。（2年p.44）</p> <p>○全学年巻末にペーパークラフトが付けてあり、興味・関心を高め、空間的に認識する内容の理解に役立つよう工夫されている。</p>	<p>○各観察・実験後には「学びをいかして考えよう」が設けてあり、日常生活や社会と結びつけながら思考力を高めることができるよう工夫されている。（2年p.139）</p> <p>○随所に「つながる科学」のコーナーを載せ、学習内容と日常生活や社会との関連を持たせることで、学ぶ意義を実感できるよう工夫されている。</p>
B	<p>○1年では、発達段階や小学校からの円滑な接続を考慮し、2、3年より少し大きな文字で書かれていたり、小学校の学習内容を載せたりしてある。（1年p.10,11）</p> <p>○各学年の巻頭に、理科の学習の進め方が理解できるように「学習の見通しをもとう」等が示されている。（1年p.4,5）</p>	<p>○身近にあるものを観察したり、実験材料に使いたりして、生徒が理解しやすいよう配慮されている。（2年p.111）</p> <p>○実験・観察では、手順に「コツ」が明記され、正確に操作ができるように工夫されている。目的の他に「着目の見通しをもとう」や自分の考えを持って実験を進められるよう工夫されている。（2年p.67）</p>	<p>○巻頭に見開きでインパクトのある写真が掲載してあり、生徒が自然事象に対する興味を持つことができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年とも、発展的な観察・実験が「やってみよう」で多数紹介してあり、生徒の追究意欲を高めるよう工夫されている。（3年p.173）</p>	<p>○ノートやレポートの書き方を解説したページが設けてあり、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を高めるよう工夫されている。（1年p.274,275）</p> <p>○単元末には「読解力問題」のページがあり、単元内容に関連する問題を解くことで思考力・活用力を高められるよう工夫されている。（2年p.154）</p>	<p>○随所に「くらしの中の理科」のコーナーが設けてあり、学習内容と実生活との関連が分かるよう配慮されている。（3年p.19）</p> <p>○記載されている算数・数学の学習内容やことばの解説を示し、他教科等のつながりが意識できるよう工夫されている。（1年p.126,127）</p>	<p>○デジタルコンテンツ「理科の世界WEB」があり、実験・観察動画、外部リンクなどが利用できるようにしている。</p> <p>○山陰海岸ジオパークが掲載されており、地域に素晴らしい環境があるということが認識できるものになっている。（1年p.280）</p>	<p>○植物の茎の断面の観察や位置エネルギーの実験などに身近な材料を用いた実験方法を提案しており、教員にとっては準備がしやすく、生徒にとっては馴染みのあるものになるよう工夫されている。（2年p.111,3年p.59）</p> <p>○観察・実験の目的を生徒に意識させながら、自分の考えを整理したり、表現したりする活動が多く取り入れられている。</p>

## 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
E	<p>○見開きで写真や図表、文字が大きく示されている。特に、実験方法は装置の一部を大きく拡大してあり、正確に進めることができるよう工夫されている。(2年p. 18, 19)</p> <p>○1年の各章の始めに「問題発見」のページがあり、1年の重点である問題を見だし見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。(1年p. 130, 131)</p>	<p>○全ての観察・実験が課題のページと方法のページ、結果のページでまとめてあり、探究の過程が明確に示されている。(2年p. 17-20)</p> <p>○単元末の「学び続ける理科マスター！」では、学習の深め方が紹介され多面的に考えることができるよう工夫されている。(1年p. 124, 125)</p>	<p>○「世界は、物質でできている」などインパクトのある言葉や問いかけで単元への興味・関心を高めるよう工夫されている。(1年p. 65)</p> <p>○「やってみよう」や「サイエンスカフェ」では、学習内容の理解を深めるとともに、興味・関心を高めるよう工夫されている。(3年p. 22, 31)</p>	<p>○1時間ごとに課題を解決するための「見方・考え方」が示しており、授業のポイントがよく分かるよう工夫されている。(3年p. 15)</p> <p>○「学びを日常にいかしたら」では、字数制限を設けた記述問題が用意されており、思考力・判断力・表現力等を育成できる内容となっている。(2年p. 142, 143)</p>	<p>○1、2年の巻頭において「なぜ理科を学ぶの?」「理科で何を学ぶの?」「理科を学ぶとどうなるの?」「どうやって理科を学ぶの?」が掲載され、理科学習の有用性や実社会との関連性が示されている。</p> <p>○巻頭の「ミッションX」では学習内容と関連する職業について紹介され、科学を学ぶ意義や有用性が実感できるよう工夫されている。</p>	<p>○実験のデータや情報が二次元コードを読み取ることによって閲覧できるようになっている。</p> <p>○各学年の巻末に「アイデアボード」があり、対話的な学習のツールとして用いることができるようになっている。</p>	<p>○巻頭に「理科のトリセツ」が設けられ、理科を学ぶことの意義や、探究の進め方などについて理解してから学習を始める流れになっている。</p> <p>○目標や見通しを明確に持って学習に取り組み、章末には何ができるようになったかを振り返り、生徒が自らの成長を意識しながら学習を進めることができるよう工夫されている。</p>
G	<p>○単元の導入ではダイナミックな写真や丁寧な解説を載せ、生徒の追究意欲を高められるよう工夫されている。(2年p. 6, 7)</p> <p>○「発芽に使われるデンプン」など小学校の復習を分かりやすい写真などを用いて示すことで、学習に向かいやすくしている。(2年p. 109)</p>	<p>○各学年の巻頭に「探究の進め方(疑問・課題・仮説・計画・観察・実験・考察・結論)」が示しており、生徒が見通しを持って学習できるよう工夫されている。</p> <p>○観察・実験が見開きの紙面となるように構成しており、観察・実験の手順を理解しやすいように配慮されている。(1年p. 28, 29)</p>	<p>○身近な科学の話題や最先端の科学の話題を学習できるように、科学の話題を紹介するコラム「ハローサイエンス」が随所に掲載してある。(1年P. 110)</p> <p>○学習前後に同じ問いかけをすることにより、学習した自分の成長を実感できるよう工夫されている。(3年p. 68, 75)</p>	<p>○「要点をチェック」「要点と重要用語の整理」「基本問題」「学年末総合問題」の4つのステップで学習内容の定着を図っている。(2年p. 25, 78, 80, 302)</p> <p>○レポートの書き方やレポート例となる「私のレポート」を多数掲載し自分の考えをまとめ表現する力を育成できるよう工夫されている。(1年p. 17)</p>	<p>○「思い出そう」や「ブリッジ算数・数学」、「発展」が設けてあり、小・中・高の接続や他教科との連携を意識できるよう工夫されている。(1年p. 14, 2年p. 248, 3年p. 35)</p> <p>○2、3年の巻頭資料で、日本の高い科学技術が世界中の生活を豊かで便利なものにしていくことを紹介し、科学の有用性を実感できるよう工夫されている。</p>	<p>○巻末に生物や原子のモデルカードがあり、分類や化学反応式を考えやすくなるよう工夫されている。(1年, 2年)</p> <p>○教科書とウェブとの連動を図り、巻頭に「まなびリンク」として二次元コードとURLが掲載してある。(1年p. 16)</p>	<p>○小学校や高等学校の学習内容を示し、円滑な接続を意識したつくりになっており、学年に応じてステップアップできるように構成されている。</p> <p>○他教科でも学習する社会問題についてのコラムを掲載するなど、教科等横断的な指導につながるよう工夫されている。(2年p. 219)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
L	<p>○全ての単元の導入に「つながる学び」が設けてあり、既習事項と関連付けて学習に取り組めるよう配慮されている。(2年p.4)</p> <p>○新しく認知された地質時代の一つである「チバニアン」(千葉県地層)を取り上げ、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p.109)</p>	<p>○「学ぶ前にトライ！」で単元内容に関わる問いについて考え、「学んだ後にリトライ！」で自分の考えがどのように変容したのか確認する構成となっている。(3年p.47,93)</p> <p>○見開き中央部分に本文が掲載されるようレイアウトし、左右に様々な情報を載せ、生徒の理解が深まるよう工夫されている。(1年p.28,29)</p>	<p>○自分の考えを自由に書き込むことができる「探Qシート」が巻末にあり、主体的に探究活動に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「科学コラム」では部活・料理・仕事等と科学の関連について取り上げ、日常生活と理科を結び付け、興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(1年p.53)</p>	<p>○実験の安全対策や注視点について、マークと簡潔な言葉を組み合わせ、分かりやすく示してある。特に事故発生予防が必要な実験には方法の「ステップ0」で安全確認をするようにしてある。(2年P.176)</p> <p>○単元の最後には、「みんなで探Qクラブ」等のコーナーがあり、身に付けた探究の力を発揮できるよう工夫されている。(3年p.170)</p>	<p>○算数・数学(計算)、社会科(等高線・地理分野)、国語(古典)、家庭科(熱量)を囲み枠で示し、教科等横断的に学習できるようになっている。(1年p.169,2年p.98,245,3年p.61)</p> <p>○単元の最後に学習した内容を社会や未来に広げる読み物「ひろがる世界」を掲載し、生徒に理科の有用性が伝わるよう工夫されている。(3年P.100)</p>	<p>○各学年とも化学分野の学習前には「サイエンス資料」を配置し、実験器具の扱い方や安全への配慮等を掲載している。(1年p.130-137)</p> <p>○タブレット端末を二次元コードにかざすと動画や問題を見ることができ、自分のペースで学習を進めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○新しい教材(地質時代)や地元の教材(江津市の風力発電)を取り上げ、生徒の興味・関心や追究意欲を高めるよう工夫されている。(1年p.109,2年p.95)</p> <p>○二次元コードが多く、ページに掲載されている。様々な動画や問題を見ることができ、自主的な学習ができるよう工夫されている。(1年p.2,13,55)</p>



# 選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（一般） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○「Active!」として活動例を示し自分の考えをまとめ、グループで協働的な活動ができるよう工夫されている。(1年p. 6-11)</p> <p>○「学びのユニット」では、学びのねらいと活動、さらに学びを深めるための楽曲や活動等が示されており、生徒の学びの手がかりとなるよう工夫されている。(1年p. 4, 5)</p>	<p>○鑑賞では、表現活動につないだり、諸外国の音楽と比較したりすることで学びを深めるための工夫がなされている。(1年p. 48-53, 63)</p> <p>○「音のスケッチ」では、創作をスモールステップで進め、構成を理解した上でリズムアンサンブルにつながるなど、学習を深められるよう配列が工夫されている。(1年上p. 34-37)</p>	<p>○「日本の歌みんなの歌」では巻頭に歌詞の内容にあった美しい風景が写真で紹介され、生徒がイメージをしながら表現できるよう工夫されている。(2・3年下口絵①②)</p> <p>○巻頭に鑑賞教材の作曲家のエピソードを紹介し、生徒が興味を持ち、学習意欲が高まるよう工夫されている。(2・3年上口絵②)</p>	<p>○巻末には、全校合唱として同じ教材が学年に応じて発展させた編成に編曲されており、全校で取り組むことができるよう工夫されている。(2・3年下p. 80, 81)</p> <p>○「歌のアルバム」には学年に応じた音域での合唱曲が掲載され、無理なく歌唱ができるよう工夫されている。(2・3年下p. 70-79)</p>	<p>○「私たちのくらしと音楽」として音楽教育や知的財産権について紹介し、生活の中での音楽の役割や扱い方について学習できるよう工夫されている。(2・3年上p. 70, 71)</p> <p>○「CMソングをつくる」では、創作の活動を通して地域を紹介するなど、総合的な学習の時間との関連を図ることができるよう工夫されている。(2・3年下p. 24, 25)</p>	<p>○2・3年上下には「発展」として「音の三要素」について示されており、生徒が主体的に学びを深める工夫がなされている。(2・3年上p. 72 下p. 68)</p> <p>○「何が同じで、何が違う？」では日本と諸外国の音楽を比較し、特徴を見つけるよう工夫されている。(2・3年下p. 50)</p>	<p>○様々な時代・諸外国の楽曲から教材が選択されており、生徒が楽しんで学習に取り組むことができるよう工夫されている。(2・3年上p. 74-81)</p> <p>○巻末には様々な楽器を折込を使ったワイドな紙面で示し、生徒の興味・関心を深め、理解を深められるよう工夫されている。(1年口絵③④)</p>
H	<p>○「深めよう！音楽」として、活動の流れや思考を促すヒント、表現へのつなぎ等の内容が示され、活動を深めることができるよう工夫されている。(1年p. 19)</p> <p>○鑑賞教材Challenge!では、ねらいに即した参考曲が示され、学習内容を深めることができるよう配慮されている。(2・3年上p. 41, 47)</p>	<p>○巻頭の「学習内容」でこれから学ぶ内容や授業で身に付ける力を見通し、「音楽を形づくっている要素」で学習したことを確認できるように構成されている。(1年p. 8, 9, 67)</p> <p>○学習のめあてと音楽を形づくっている要素が左側に見出しで標記され、生徒が内容や流れをつかみやすいよう工夫されている。(1年p. 26-34)</p>	<p>○鑑賞教材では、実際に唱歌（しょうが）や演奏をすることで、音楽の特徴をつかみ、学びを深めることができるよう工夫されている。(2・3年下p. 48-50)</p> <p>○巻頭に芸術家からのメッセージや多様なコラムを掲載し、音楽と生活や社会との関連に興味を持つことができるよう工夫されている。(2・3年下p. 2-5)</p>	<p>○石見神楽などの郷土芸能が写真とともに掲載され、地域の音楽文化を大切にする心情を育むことができるよう配慮されている。(2・3年上p. 68, 69 2, 3年下背表紙)</p> <p>○「ふるさと」は学年に応じた音域で全校合唱ができ、学校の実態に応じて活用できるよう配慮されている。(1年p. 70, 71, 2・3年78, 79, 3年72, 73)</p>	<p>○「生活や社会の中の音楽」では音楽の役割や音楽に関わる仕事、SDGsの取組が紹介され、総合的な学習の時間等との関連を図ることができるよう工夫されている。(2・3年下p. 68, 69)</p> <p>○英語の歌や国語科で扱われる教材に関連した楽曲が掲載され、教科横断的な学びができるよう工夫されている。(2・3年下p. 23, 28, 29, 82-85)</p>	<p>○長唄、謡では音高の動きを表した図形譜、演奏者からのアドバイス等が掲載され、取り組みやすいよう配慮されている。(2・3年上p. 60, 61)</p> <p>○「深めよう音楽」に編曲の工夫点から音楽の特徴を調べ、表現を創意工夫することができるよう配慮されている。(2・3年上p. 16)</p>	<p>○歌唱・創作・鑑賞の学習を関連付けて教材が選択され、学んだことを関連付けて活用することができるよう、音楽を形づくっている要素を中心に教材が結び付けられている。(1年p. 18-23)</p> <p>○様々な教材でキャラクターの吹き出しに、生徒の気付きや思考を促す内容が示され、主体的・対話的な活動につながるよう工夫されている。(2・3年上p. 17)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○前半「演奏の仕方を身につけよう」で基礎的な知識や技能を習得し、後半「合わせて演奏しよう」でアンサンブル曲を通して奏法を確認したり楽曲の特徴を感受したりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○各楽器の学習では、基礎的な技能と楽曲が関連付けて配置されており、演奏を通して技能が習得できるよう配慮されている。(p. 6-16)</p>	<p>○各楽器の導入では、それぞれの楽器の紹介や基礎的な奏法について、多くの写真を使ってまとめて示されている。(p. 28-30, 54-59)</p> <p>○楽器の音色や響きと奏法との関わりについて考えながら学習を進めていくことができるよう、学習のめあてが主に左ページ上部に示されている。(p. 56)</p>	<p>○「何が同じで、何が違う？」では音の出る仕組みや奏法、音色などを比較しながら自分が着目したことについて話し合いながら学ぶことができるよう工夫されている。(p. 26, 52)</p> <p>○同じ楽曲の五線譜と縦譜が用意されており、それぞれの楽譜の特徴を理解したり、学習内容によって選択したりすることができるよう工夫されている。(p. 78-85)</p>	<p>○「音のスケッチ」では創作との関連を図り、音色や旋律、構成などを工夫しながら音楽表現ができるよう配慮されている。(p. 71, 77, 92, 93)</p> <p>○「Let's Play!」「Let's Try!」では各楽器の特徴を生かした合奏教材がクラシック、ポピュラー、民謡などから幅広く取り上げられており、実態に合わせて選曲できるよう配慮されている。(p. 60-93)</p>	<p>○「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では、楽器の背景にある文化や伝統などについて調べる学習に取り組むことができるよう工夫されている。(p. 27, 53)</p> <p>○リコーダーのトリル奏法やギター TAB譜が使用されており、学校や生徒の実態に応じて発展的に学習を深めていくことができるよう配慮されている。(p. 17, 34)</p>	<p>○リコーダーの練習曲にコードネームがつけられており、和声を感じながら表現することができるよう配慮されている。(p. 6, 7)</p> <p>○ギターのダイアグラムに対応した手元の写真や五線譜に対応した鍵盤の写真を示すことにより、視覚的な支援がなされている。(巻末口絵③④)</p>	<p>○幅広いジャンルの楽曲が多数掲載されており、学校や生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。</p> <p>○習得した技能を使って発展的な学習内容に取り組んだり、合わせて演奏する活動に幅広く取り組んだりできるよう配慮されている。</p>
H	<p>○前半の各楽器の学習では、生徒の実態に合わせて基礎的な技能が習得できるよう、平易な楽曲が扱われており、基礎・基本の定着を図ることができるよう構成されている。</p> <p>○「アンサンブル」「楽器でMelody」では、身に付けた力をもとに、曲想にふさわしい表現を工夫したり、楽曲の構造を生かした表現をしたりすることができるよう配慮されている。(p. 76-99)</p>	<p>○各楽器の導入では、それぞれの楽器の紹介や基礎的な奏法について、写真を使って簡潔にまとめて示されている。(p. 32-35, 56-58)</p> <p>○前半の各楽器の学習では、鑑賞と関連を図って音色に親しんだり、「楽器を知ろう」というコラムで歴史的な背景等を学んだりすることができるよう構成されている。(p. 16, 32, 40, 50, 56, 62, 66)</p>	<p>○チェックマークのついた項目やQ&amp;Aでは、各楽器の奏法のポイントや用語の説明がなされており、音楽活動を通して知識・技能を深めていくことができるよう配慮されている。(p. 22, 23)</p> <p>○「和楽器こぼれ話」「楽器の図鑑」では、楽器にまつわるコラムや分類が記されており、興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(p. 51, 104, 105)</p>	<p>○創作との関連を図り、箏の音色や音階を生かし、音楽のしくみや構成を工夫して旋律をつくる学習ができるよう工夫されている。(p. 49)</p> <p>○鑑賞学習との関連を図った教材が取り上げられており、聴きとったことと感取ったこととのかかわりについて、表現を通して学ぶことができるよう工夫されている。(p. 94, 95)</p>	<p>○「アンサンブルセミナー」では、アーティキュレーションの工夫やパートの役割、曲の構成など演奏の工夫における思考・判断の視点が示されており、創意工夫しながら学習を深めていくことができるよう配慮されている。(p. 10-15)</p> <p>○地域の中学生の取組や、音楽と生活とのかかわりに関連する写真が多く掲載され、興味・関心をもつことができるよう工夫されている。(p. 56, 62, 107, 裏表紙)</p>	<p>○和楽器の演奏に関するだけでなく、姿勢や身体を使い方、礼儀などについて解説されており、我が国の伝統や音楽文化を理解することができるよう配慮されている。(p. 42)</p> <p>○合奏でよく使われる打楽器やラテンパーカッションの基本的な奏法が写真とともにわかりやすくまとめられている。(p. 70-74)</p>	<p>○比較的平易な楽曲が選択されており、基礎・基本の定着を図ることができるよう配慮されている。</p> <p>○中学生の器楽の学習内容がまとめられ、音楽科で身につける資質・能力と、その学習の支えとなる音楽を形づくっている要素との関連が示されている。(p. 8, 9)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
D	<p>○2・3年で独立した鑑賞の題材を多数掲載している。日本美術や西洋美術について、多様な表現の様式や歴史を学ぶよう工夫されている。(2・3年p. 36-61)</p> <p>○各題材に「学習のポイント」として、その題材の学習を生徒自身が深めていくために大切な点を短い文でまとめて示している。(1年p. 14)</p>	<p>○1年、2・3年のどちらも、様々な材料や技法を扱った工芸の題材が複数掲載されている。(1年p. 44-49, 2・3年p. 80-91)</p> <p>○2・3年に「鑑賞」と「まとめ」の項があり、美術の働きや美術文化の鑑賞を扱う内容が整理されている。(2・3年p. 5)</p>	<p>○1年の最初に「学びの地図」として、3年間の美術の学習の見通しを学習指導要領の「内容」に基づいて整理している。(1年p. 6)</p> <p>○「学習の目標」が育成を目指す三つの資質・能力で整理され、生徒にとって意識しやすい言葉でまとめられている。(2・3年p. 10)</p>	<p>○「美術の用語」として、他教科では使われないような美術の専門用語の解説が示されている。(1年p. 11)</p> <p>○「安心と安全のデザイン」では、学校や地域に目を向け、防災や環境などについて考えることで、デザインの役割を意識することができるよう工夫されている。(2・3年p. 76, 77)</p>	<p>○「暮らしに生きる美術」として様々な職業と美術の関係が掲載されており、生活や社会の中の美術を考える内容になっている。(2・3年p. 6, 7)</p> <p>○各題材のページ左下に、関連のある他教科の単元名を示し、教科等横断の参考となるよう工夫されている。(1年p. 10)</p>	<p>○2・3年を1冊のワイド版とし、情報量を増やしたり、作品を大きく掲載したりすることで鑑賞活動をより充実して行えるように配慮されている。</p> <p>○デザイナーの制作過程や思いがインタビュー形式で掲載されており、専門家のものの見方や考え方からデザインを知ることができるよう工夫されている。(1年p. 34, 35)</p>	<p>○工芸の題材が多数掲載されており、伝統工芸から現代工芸までの様々な材料や技法での表現を学ぶよう工夫されている。(1年p. 44-49, 2・3年p. 80-91)</p> <p>○2・3年の鑑賞題材で、美術の働きや美術文化の学習として、日本と西洋の美術の多様な様式や歴史や、美術と社会との関係を学ぶ題材が多数掲載され、それぞれを詳しく学べる内容になっている。(2・3年p. 36-61, p. 92-105)</p>
I	<p>○各題材で参考作品の「鑑賞」から、「表現」の発想や構想につながるレイアウトになっており、表現と鑑賞を関連付けられるよう工夫されている。(1年p. 16)</p> <p>○「みんなの工夫」として、主題生成からアイデアスケッチなどの構想、実際の表現の工夫までの例が順を追って具体的に示されている。(2・3年p. 8)</p>	<p>○生徒の主體的な気付きを基にした対話的な学びによる作品鑑賞や、共通点がある複数の作品の比較鑑賞の題材が設定されている。(1年p. 21, 2・3年p. 24, 36)</p> <p>○質感の異なる紙を綴じ込み、版画の質感や特徴を表現したり、消失点を探すためにトレーシングペーパーを活用したりするようになっている。(1年p. 19, 20, 2・3年p. 11, 12)</p>	<p>○題材の目標が、表現と鑑賞の2つに分けて記載され、生徒にとって意識しやすいものとなるよう工夫されている。(1年p. 10)</p> <p>○漫画や映像メディア表現など、生徒の関心が高く、身近に感じたり体験できたりする題材や資料が掲載されている。(2・3年p. 36-39, 80, 81)</p>	<p>○「学習を支える資料」では、技法の紹介に併せて、同じ技法の中でも様々な材料を紹介しており、生徒が自分の表現に適した材料を選択する際に参考となるよう工夫されている。(1年p. 68, 71)</p> <p>○「印象に残るシンボルマーク」として、島根県立美術館のロゴを掲載し、身近なところにもデザインとの関わりが存在していることに気付くように工夫されている。(1年p. 46)</p>	<p>○他教科(国語科、数学科、社会科、家庭科)や道徳科との具体的なつながりが示されているページがあり、教科等横断的な学びの工夫がなされている。(1年p. 37)</p> <p>○「地域の魅力を伝える」として、自分が住む地域の魅力を商品のパッケージやバッグなどをデザインすることで、社会参画や郷土を愛する態度を養うことができるよう工夫されている。(2・3年p. 70, 71)</p>	<p>○屏風の鑑賞において、実際の立体物と同じように折り曲げた状態で鑑賞できるレイアウトになっている。(1年p. 31)</p> <p>○キャラクターを登場させ、吹き出しでポイントや解説を示すことで、美術の学習に親しみやすくなるよう工夫されている。(1年p. 6)</p>	<p>○各題材において、鑑賞から表現へつながり、表現では主題生成から構想を練り、工夫して表現していく過程や学びの方向性が分かるようレイアウトが工夫されている。また、発想や構想のためのヒントも多く示されている。(1年p. 22-25)</p> <p>○教科等横断的な視点を具体的に例示したり、思考ツールやグループ活動の仕方を資料として掲載したりすることにより主體的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。(2・3年p. 59, 61, 76, 77)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
○	<p>○1年は「美術との出会い」、2・3年は上下に分かれ、「学びの実感と広がり」、「学びの探求と未来」と題されており、発達段階を考慮して学習が発展するよう工夫されている。</p> <p>○題材ごとに「造形的な視点」が吹き出しで示され、その題材でポイントとなる点がかかるよう工夫されている。(1年p. 19)</p>	<p>○生徒の気付きを基にした対話的な学びによる作品鑑賞や、斬新な発想を基にした現代美術を学ぶ鑑賞など、鑑賞の題材設定が工夫されている。(1年p. 30, 2・3年上p. 22)</p> <p>○1年に水墨画や情報伝達、2・3年下に映像表現や道のデザインなど、多様な美術表現を学ぶ題材が設定されている。(1年p. 22, 48, 2・3年下p. 40, 41, 44, 45)</p>	<p>○題材ごとに身に付けたい力が、三つの「学びの目標」として示され、学習指導要領に基づいた言葉でまとめられている。(1年p. 12)</p> <p>○生徒の意欲を引き出すタイトルと、活動や目的を示すサブタイトルを示すことにより、内容や活動がつかみやすいよう工夫されている。(2・3年上p. 34)</p>	<p>○「祭りを彩る造形」では、津和野町の鷺舞神事を取り上げるなど、地域の伝統文化を身近に感じられるよう工夫されている。(1年p. 57)</p> <p>○「わくわくコミュニケーション」では、伝えたい情報をイラストや写真、色彩などに着目して分かりやすくまとめる手立てが記載され、他教科等の学習にも活用できる内容となっている。(1年p. 48, 49)</p>	<p>○「社会に生きる美術の力」等に、様々な職業と美術の関係が掲載されており、生活や社会の中の美術を考える内容になっている。(2・3年下p. 58)</p> <p>○多くの題材で、ページ左下に道徳教育との関連が示されており、美術科の特質に応じて指導できるよう工夫されている。(1年p. 9)</p>	<p>○屏風の鑑賞において、実際の立体物と同じように折り曲げた状態で鑑賞でき、表裏で2作品が見られるレイアウトになっている。(1年p. 32)</p> <p>○「学びを支える資料」に、授業での発想・構想の方法や作家の構想の例を載せ、制作の参考となるよう工夫されている。(1年p. 58)</p>	<p>○2・3年を上下の2冊とすることで、題材の掲載数が増え、発達段階や生徒の興味関心、学校や地域の実態等を考慮しながら題材を選択することができるようになっている。(2・3年上p. 9, 2・3年下p. 7)</p> <p>○「造形的な視点」や「学びの目標」が掲載されていることで、見通しをもつことができるよう工夫されている。(2・3年下p. 8)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○各章扉に、小学校で学習したことや高校で学習することが示されており、系統的に見通しを持って学習できるよう工夫されている。(p. 5, 49)</p> <p>○各ページの余白を広く設けてあり、本文や資料が見やすいよう配慮されている。(p. 14, 15)</p>	<p>○「見つける」で課題をつかむところから始まり、「課題の解決」、「活用する」、「広げる」と学習の流れがわかりやすいようレイアウトが工夫されている。(p. 62, 63)</p> <p>○各章末に「確認の問題」、「活用の問題」、「日常生活に生かそう」が準備されており、学習内容が定着するよう工夫されている。(p. 89, 90)</p>	<p>○キャラクターが学習のヒントやポイントを伝えることで、生徒が興味・関心を持ちながら学習できるよう配慮されている。(p. 10)</p> <p>○学習内容に関連する読み物資料を掲載し、興味・関心を高め、学習内容が深められるよう工夫されている。(p. 21, 33)</p>	<p>○各章の終末に「インターネットと依存症」「SDGsから考えよう」などの今日的な課題に関する資料が掲載され、探究的な学習ができるよう工夫されている。(p. 109, 166)</p> <p>○各時間の「活用する」では、自分の意見をまとめて発表する活動を通して、学習内容を活用して思考力・判断力・表現力を高められるよう工夫されている。(p. 99, 101)</p>	<p>○「広げる」では、自分たちの生活や身近な地域について考えるよう促し、家庭や社会生活に関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 73, 161)</p> <p>○人間関係やストレスへの対処について、体験的に身に付ける演習が用意されており、具体的な対応を身に付けることができるよう工夫されている。(p. 39, 45)</p>	<p>○学習内容に関連する動画やシミュレーションなどをインターネットで学べるコンテンツが用意されており、学習を支援し理解度を高められるよう工夫されている。(p. 1)</p> <p>○感染症について、手洗いの方法を写真付きで掲載し、生徒が感染症の予防について具体的に学習できるよう工夫されている。(p. 165)</p>	<p>○各時間の冒頭の「見つける」でつかんだ学習課題について、資料を手掛かりにして、課題解決につなげていけるよう配慮されている。(p. 22, 23)</p> <p>○各章扉に、「この章で学習すること」とともに、他教科とのつながりや、学習内容に関わりのある偉人の紹介があり、生徒が興味を持って学習できるよう工夫されている。(p. 91)</p>
B	<p>○各章扉には中学生の写真が掲載され、下方部に小学校で学習してきたことや、高等学校で学習することが示され、これまでの学習が今につながり、今の学習が将来につながる見通しがもてるよう工夫されている。(p. 15)</p> <p>○学習内容と関連した資料の注釈が見出しについており、本文の内容と資料との関係が分かりやすく記載されている。(p. 90, 91)</p>	<p>○左ページが本文内容、右ページが関連資料になっており、生徒が学習内容を整理しやすいよう配慮されている。(p. 16)</p> <p>○各時間のタイトルのすぐ右に「学習のねらい」として、目標をわかりやすく示すことで、学習内容の見通しが持てるよう工夫されている。(p. 8, 30)</p>	<p>○学習内容と関連の深い話題や読み物が「ミニ知識」や「トピックス」として紹介され、学習を広げたり、深めたりできるよう工夫されている。(p. 72, 73)</p> <p>○大きく、強い印象をうける写真が使用されており、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 100, 101)</p>	<p>○心肺蘇生法の手順が折り込み式のページで掲載され、流れと方法を同時に見ることができ、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 107, 109)</p> <p>○各時間に「話し合ってみよう」や「やってみよう」が設定しており、資料を参考に、学習を深めることができるよう工夫されている。(p. 73)</p>	<p>○現代的な課題である、スマートフォンなどの情報機器の活用について、口絵に資料を設け、日常生活において生徒の意識が高まるよう配慮されている。(口絵p. 13, 14)</p> <p>○関連した内容を学習するページを示す「リンク」が設けられ、学習内容のつながりを意識した学習ができるよう配慮されている。(p. 20, 56, 150)</p>	<p>○各章間の資料に「中学校保健体育Web」があり、関連内容を動画や資料を使って、より深い学びができるよう工夫されている。(p. 124)</p> <p>○各章末の「学びを活かそう」のページで、学習したことを普段の生活でどう生かすのか考えることができるよう工夫されている。(p. 27)</p>	<p>○左ページが本文内容、右ページが関連資料になっており、生徒が学習内容を整理しやすいよう配慮されている。(p. 16)</p> <p>○関連した内容を学習するページを示す「リンク」が教科書の同一場所に示されており、生徒がどこに何が書いてあるか分かりやすく。見通しをもって学習できるよう工夫されている。(p. 24, 60)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
K	<p>○現代的な課題である「がん教育」として特設ページを設けている。(p. 80-83, 93)</p> <p>○文字数が少なく、コンパクトにまとめられている。資料を見ながら視覚的に理解できるよう工夫されている。(p. 100, 101)</p>	<p>○「きょうの学習」として、目標をわかりやすく示すことで、学習内容の見通しがもてるよう工夫されている。(p. 81, 85, 87)</p> <p>○「章のまとめ」では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「学びに向かつて」の問題が用意されており、各観点に沿った学習の振り返りができるよう工夫されている。(p. 118, 119)</p>	<p>○各時間の学習の冒頭に「課題をつかむ」を設け、導入時に生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 108)</p> <p>○中学生の興味・関心の高い話題や心に響く事例等を「コラム」として掲載し、学習意欲を高められるよう工夫されている。(p. 76, 102)</p>	<p>○学んだことを実際の場面に当てはめて考える課題を設け、教科書に解答を書き込むことで、学習内容を生活場面で生かせるよう工夫されている。(p. 41, 43, 47)</p> <p>○県の課題である体力の向上について、その要素を詳しく示し、自立的に体力向上のための計画を立てることができるよう工夫されている。(p. 62, 63)</p>	<p>○各章扉に、これから学習する内容が、学校や地域での自分たちの生活とどう関わっているのかが示されている。学習内容を自分や実生活と結びつけながら考えることができるよう工夫されている。(p. 28, 29)</p> <p>○「他教科」マークにより、本時の学習内容と関連のある教科がわかりやすいよう工夫されている。(p. 30, 158, 171)</p>	<p>○「web保健情報館」にアクセスすることで外部サイトが利用でき、多くの情報を活用して深く学ぶことができるよう工夫されている。(p. 79, 81)</p> <p>○感染症について、6ページにわたって記載してあり、時間をかけて、深い学習ができるよう工夫されている。(p. 134-139)</p>	<p>○各章扉に、これから学習する内容が、学校や地域での自分たちの生活とどう関わっているのかが示されている。学習内容を自分や実生活と結びつけながら考えることができるよう工夫されている。(p. 28, 29)</p> <p>○各時間の「課題をつかむ」で、中学生にとって身近な話題を取り上げることで、自分事として課題意識を持つことができるよう工夫されている。(p. 38)</p>
P	<p>○各章扉では、小・中・高それぞれの段階での学習内容を示すことで、系統性を重視し、見通しが持てるよう工夫されている。(p. 42)</p> <p>○小口の色分けインデックスにより、体育編、保健編について、どの学年でどの内容を学習するのか視覚的に理解でき、3年間の見通しを持つことができるよう工夫されている。</p>	<p>○各時間の冒頭に「学習の目標」と「キーワード」が設けられており、1時間の学習の流れを見通すことができるよう工夫されている。(p. 46)</p> <p>○「章のまとめ」では、問題だけでなく、「振り返ろう」で各章での学習を振り返り、自己評価できるよう工夫されている。(p. 68, 69)</p>	<p>○キャラクターの吹き出しによる課題解決につながる言葉かけによって、生徒が興味・関心をもつとともに、補足内容を理解しやすいよう工夫されている。(p. 112, 113)</p> <p>○各ページには補充的な内容や発展的な内容が取り扱われている。「情報サプリ」が設けてあり、学習内容への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 179)</p>	<p>○「探究しようよ！」が章末に配置され、学習内容をより掘り下げ、発展的に学習できるよう工夫されている。(p. 102-104)</p> <p>○各時間の「まとめ・深める」で話し合いや記述、発表などの対話的な活動が取り入れられ、言語活動や協働的な学びが促されるよう工夫されている。(p. 109, 113)</p>	<p>○各章に学習内容に関連する人物の名言や功績、職業や資格などを紹介し、学習内容と社会との関連を実感できるようにしている。(p. 15, 73, 137)</p> <p>○人間関係やストレスへの対処について、体験的に身に付ける演習が用意されており、具体的な対応を身に付けることができるよう工夫されている。(p. 57, 67)</p>	<p>○教科書サイトを利用して、専門サイトにつながり、より詳しく、深い学びができるよう工夫されている。(p. 92, 99)</p> <p>○巻末にキーワード別に内容がまとめられており、体育編、保健編、他教科等を横断的に学ぶことができるよう工夫されている。(p. 190, 191)</p>	<p>○保健編の時間が少なめに設定されており、重点的な内容について複数時間で扱うなど、各校の実態に応じて学習の計画が立てやすいよう工夫されている。(p. 0もくじ)</p> <p>○現代的な課題である「がん教育」について、「探究しようよ！」で取り上げ、重点的に学習できるよう工夫されている。(p. 102, 103)</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（技術分野） No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○設計・計画の後に基礎技能が集約され、必要な時に調べやすいように爪が設けられている。(p. 50-67)</p> <p>○技術分野で取り組む問題解決について、そのプロセスや活動がガイダンスで示されている。(p. 14, 15)</p>	<p>○単一の素材を用いた題材例が多数示されており、それぞれの題材例は1ページにまとめられ、「私の工夫」として発展例が示されている。(p. 68-75)</p> <p>○各内容の終末に「学習のまとめ」が設けられ、大切な用語が示されている。(p. 86, 87)</p>	<p>○各内容の冒頭に社会・安全・環境・経済といった技術の評価する観点やよりよく技術を活用するための工夫が示してあり、学習の導入時に興味・関心を高める工夫がされている。(p. 18, 19)</p> <p>○各ページの下段に「技術の工夫」コーナーを設けて豆知識を載せ、学習意欲を高める工夫がされている。</p>	<p>○生活場面のイラストから日常生活を想起させ、目的に応じた活用方法を考えることで生活の問題を発見し課題を設定できるよう工夫されている。(p. 38)</p> <p>○安全について巻頭で触れるとともに、実習を伴うページに「安全」、「衛生」として写真やイラストと共に示されている。(p. 4, 5, 32, 33)</p>	<p>○技術を評価する観点に立って自分のできる技術のよりよい活用法を考えられるよう工夫されている。(p. 78, 79)</p> <p>○巻末資料として「コンピュータの基本操作」、「プログラミング手帳」が掲載されている。(p. 276-285, 巻末p. 1-8)</p>	<p>○巻末に各内容で扱う用語の解説がまとめて書かれている。(p. 286-288)</p> <p>○全内容の最後に「技術分野の学習を終えて」という項目を設け、学習内容を振り返り、社会を支える技術について個々の考えを記入できるよう構成されている。(p. 272-275)</p>	<p>○見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントが採用されており、全体的に淡いカラーが用いられている。</p> <p>○各内容の最後の「学習のまとめ」により学習全体の振り返りをし、復習とその定着を図られるよう工夫されている。</p>
C	<p>○題材例に沿って製作過程を提示し、基礎技能をハンドブックにもまとめて説明している。(p. 50-69, 別冊 p. 2-12)</p> <p>○技術分野で取り組む問題解決について、「問題を解決する工夫を考えよう」として視点が示されている。(p. 22, 23)</p>	<p>○複数の素材を用いた題材例が多数示されており、1つの題材例について複数ページを割り、それぞれに作業手順を写真で示して説明してある。(p. 50-69)</p> <p>○各内容の終末に「まとめ」が設けられ、評価の観点ごとに示されている。(p. 76, 77)</p>	<p>○各内容の冒頭に関連技術の写真や「技術の発展例」が示してあり、学習の導入時に興味・関心を高める工夫がされている。(p. 11)</p> <p>○題材の中で、作業をうまくこなすための「ポイント」が示されている。(p. 29, 32, 33)</p>	<p>○問題を発見し、課題を設定するために、身近な問題例を示したイラストを元に考える視点が示されている。(p. 37)</p> <p>○安全について巻頭で触れるとともに、実習の前に複数ページを割り「実習の安全な進め方を知ろう」とまとめて示されている。(p. 4, 5, 24, 25)</p>	<p>○より良い技術を活用するために、プラス面とマイナス面の視点で考えるよう示されている。(p. 72, 73)</p> <p>○巻末資料として「先輩からのメッセージ」が掲載されている。(p. 284, 285)</p>	<p>○別冊として各内容での基礎技能についてハンドブックとしてまとめている。(別冊)</p> <p>○全内容の最後に「夢をかなえる技術」という章を設け、複数の内容を組み合わせた問題解決例について示されている。(p. 270-283)</p>	<p>○図や写真、イラスト、表の資料を多く用いるとともに、本文中に関係資料との関連を色付けマーカーで目立つように示されている。</p> <p>○各内容が「知識と技能の習得」、「設計・計画を踏まえた製作・育成」、「評価し、活用する」の同じ順で構成されている。</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（技術分野） No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
D	<p>○製作工程に沿って、基礎技能を説明するとともに、「参考」で発展的な内容が示されている。(p. 70, 80)</p> <p>○技術分野で取り組む問題解決について、ガイドランスでプロセスを示し、各内容で実際の活動について章立てして示されている。(p. 6, 7)</p>	<p>○単一の素材を用いた実習例が多数示されており、実習例ごとに問題解決のプロセスが示してある。(p. 56-67)</p> <p>○各内容の終末に「学習のまとめ」が設けられ、大切な用語が示されている。(p. 92, 93)</p>	<p>○各内容の冒頭に「技術の歴史」、「小学校との関連、中学校他教科との関連」が示してあり、学習の導入時に興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 21)</p> <p>○各ページの下段に「豆知識」が設けてあり、学習意欲を高める工夫がされている。</p>	<p>○問題を発見し、課題を設定するために、身近な生活、社会とのつながりを意識したイラストを元に考える視点が示されている。(p. 46, 47)</p> <p>○安全について巻頭で触れるとともに、実習を伴うページに「安全」として留意点が示されている。(p. 3-5, 70)</p>	<p>○技術の最適化について、概念図を通して自分の取組を振り返るよう示されている。(p. 88, 89)</p> <p>○巻末資料として「コンピュータの基本操作、プログラミング」が掲載されている。(p. 270-287)</p>	<p>○巻末資料として「日本各地の伝統的な技・材料・工芸マップ」が掲載されている。(p. 292-294)</p> <p>○全内容の最後に、「技術分野の学習を振り返り、～」という章を設け、学習内容を振り返ることができるよう構成されている。(p. 266-269)</p>	<p>○鮮明で色合いが濃い図や表を多く用いるとともに、吹き出しを設けて視点が明確に示されている。</p> <p>○ページ右下に示された二次元コードを読み込むことで関連した動画を視聴でき、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 27)</p>



選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○内容は、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」、A「家族・家庭生活」の順番で構成されている。</p> <p>○家庭分野の内容と小学校での学習内容や他教科との関連を、マークや写真、イラストを用いて示している。(p. 168, 174)</p>	<p>○「生活の課題と実践」では、さまざまな成果物や発表例が示され、生徒が見通しをもつてまとめることができるよう工夫されている。(p. 272)</p> <p>○「まとめよう」、「生活に生かそう」には、目標に対応して学習のゴールの課題が示され、ねらいに沿ったまとめができるよう工夫されている。(p. 189, 197)</p>	<p>○各時間の冒頭に「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」が示してあり、学習の導入時に興味・関心を喚起する工夫がされている。(p. 22, 24, 28, 30)</p> <p>○「プロに聞く！」のコラムや巻末資料「学んだことを社会に生かす」を設け、学習内容と社会の関連が意識できるよう工夫されている。(p. 29, 282, 283)</p>	<p>○教科書の2ページ目に見開きで実習を安全にするためのガイダンスがあり、注意を喚起している。(p. 2, 3)</p> <p>○「学習のまとめ」では、「大切な用語」が整理され、基礎的な知識の定着が図られるよう配慮されている。(p. 208)</p>	<p>○各内容が家族・家庭のどのような機能と関連しているかを問いかける挿絵があり、生活の営みの機能を意識させるよう工夫されている。(p. 158など)</p> <p>○巻末に「防災・減災手帳」が付いており、取りはずして学習後も日常生活において活用しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○二次元コードは、各編の導入のページに掲載され、インターネットを活用して学習が進められるよう工夫されている。(p. 107)</p> <p>○調理実習例の手順がすべて写真付き6段階の横の流れで記載され、調理手順の計画や調理上の変化の理解がしやすくなっている。(p. 66, 67, 72, 73)</p>	<p>○自立に必要な基礎的・基本的な事項が確実に身につくように、実習場面では「これだけではできるようになるう！」としてチェックリストが掲載されている。(p. 73)</p> <p>○「生活の課題と実践」では、さまざまな成果物や発表例が示され、生徒が見通しをもつてまとめることができるよう工夫されている。(p. 272)</p>
C	<p>○内容は、A「家族・家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」の順番で構成されている。</p> <p>○各章のはじめには、「自立度チェック」があり、生徒が自分自身の生活の自立度を振り返ることを通して、生活を見つめることができるよう配慮されている。(p. 239)</p>	<p>○「生活の課題と実践」では、生活の中から問題を発見し、課題を設定する過程の具体例が詳しく示され、生徒が主体的に課題を設定できるよう工夫されている。(p. 284-291)</p> <p>○学習の終わりに「振り返る」場面を設定し、めあてに沿ってA、B、Cの3段階自己評価とともに「私の学び」として自分の言葉で学んだことを振り返ることができるように工夫されている。(p. 31)</p>	<p>○中学生に馴染み深いアニメ作品などを取り上げ、興味を持って学習ができるよう工夫されている。(p. 12, 13)</p> <p>○調理や製作について、1つの実習題材例をアレンジした実習例・作品例が複数掲載され、学習意欲を喚起する工夫がされている。(p. 125, 127, 200, 201)</p>	<p>○「実習は安全に取り組もう！」では、実習中のイラストから生徒が危険な行為を考えられるよう工夫されている。(p. 7)</p> <p>○「学習の振り返り」では、学習内容の確認に加え、これからの生活の中で続けていけそうなことを考える項目もあり、家庭生活での実践が続くよう配慮されている。(p. 280)</p>	<p>○章の終わりには、学習を生かして自分の課題に取り組む学習活動が紹介され、学んだことを実生活に生かすことができるよう工夫されている。(p. 66, 67)</p> <p>○巻頭の口絵には、年中行事と食事が写真とイラストで掲載され、伝統的な文化と食生活の関連が意識されるよう工夫されている。(口絵3-7, p. 1)</p>	<p>○二次元コードが複数設けられており、インターネットを活用した参考資料が示されている。(p. 169)</p> <p>○料理の失敗例を掲載し、その理由を問うことで、思考力を高めるよう工夫されている。(p. 125, 127)</p>	<p>○身に付けた知識・技能を活用することができるよう、調理実習の場面では「私のアレンジ」として様々な活用例を紹介している。(p. 124, 125)</p> <p>○「生活の課題と実践」では、生活の中から問題を発見し、課題を設定する過程の具体例が詳しく示され、生徒が主体的に課題を設定できるよう工夫されている。(p. 284-291)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
D	<p>○内容は、A「家族・家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」の順番で構成されている。</p> <p>○各内容のはじまりには、「小学校での学び」を設け、系統性を意識することができるよう配慮されている。(p. 72)</p>	<p>○「生活の課題と実践」では、生活を見つめることから課題設定をする過程が具体的に紹介されており、生徒が主体的に課題を設定することができるよう配慮されている。(p. 266-277)</p> <p>○「ふり返り」の欄では、知識が生きて働くものとして定着するように、学んだことを基に自分の言葉で説明するよう工夫されている。(p. 173)</p>	<p>○ページの右上に学習内容に関わる写真とその名称等が載せられ、生徒が興味・関心をもつことができるよう工夫されている。(各ページ右上)</p> <p>○「わたしの興味・関心」では、学習前や学習後の興味・関心を記録する欄があり、生徒が興味・関心を自覚できるよう工夫されている。(p. 70, 71)</p>	<p>○実習を行う際、特に注意を促すところには「安全マーク」「衛生マーク」をつけたり、調理実習例に食物アレルギーについての情報を載せたりしている。(p. 107, 111, 113)</p> <p>○「学習のまとめ」では、自分ならどうするか考える項目があり、学んだことを実生活で生かすことができるよう工夫されている。(p. 265)</p>	<p>○他教科と関連がある内容では、ページの右上に関連する教科名と内容が示されており、他教科との関連を意識して学習が進められるよう工夫されている。(p. 131)</p> <p>○各章に「生活にいかそう」を設け、学んだことを生活場面でどのように生かすかを具体的に考えるテーマが設定されている。(p. 221)</p>	<p>○実習・製作のページには二次元コードが掲載されており、インターネットを通じて関連する情報がすぐに見られるよう工夫されている。(p. 169)</p> <p>○食物アレルギー物質を含む食材についての情報が、調理実習例に具体的に記載されている。(p. 102, 103, 116-118, 120, 121)</p>	<p>○科学的根拠に基づいて理解できるように、調理実習の場面では「豆知識」や「調理方法Q&amp;A」でなぜそうするのか解説している。(p. 116, 117)</p> <p>○「生活の課題と実践」では、生活を見つめることから課題設定をする過程が具体的に紹介されており、生徒が主体的に課題を設定することができるよう配慮されている。(p. 266-277)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○各学年の教科書は、1年11Unit (167ページ)、2年7Unit (159ページ)、3年6Unit (155ページ)で構成されている。</p> <p>○学年に応じ130～509語の計8つの読み物教材があり、図表も合わせて必要な情報を読み取るものや人物の心情を読みとるものなど、目的に応じた読み方が指導できるよう工夫されている。(1年p. 98, 2年p. 100, 3年p. 110)</p>	<p>○4技能を使いながら段階的に新出表現を習得するUnitと、学んだことを活かして複数の技能を総合的に活用して表現するStage Activityから構成されている。(2年p. 106, 109, 114, 118, 119)</p> <p>○1年の教科書では小学校の内容を復習しながら中学校の学習へとつなぐ工夫がされている。(1年p. 4-56)</p>	<p>○題材に現在の社会に大きな影響を及ぼした偉人の直筆メッセージやスピーチの要約等を取り上げ、生徒の興味・関心を高める内容となっている。(3年p. 55, 110-113)</p> <p>○学習した題材に関連する情報を紹介する「コラム」や「一言メモ」が随所にあり、生徒が文化や歴史、社会問題等にも目を向けられるよう工夫されている。(3年p. 24, 25)</p>	<p>○各ページの新出語句の下に小学校の学習でふれた単語が掲載されるとともに、巻末には一覧表もあり、小中の学びの接続に配慮がされている。(2年p. 110, 134-137)</p> <p>○各学年3、4回の「学び方コーナー」で単語の覚え方や英語学習法に関するアドバイスが掲載されており、生徒が自ら学習を進めることができるよう工夫されている。(2年p. 33, 3年p. 114)</p>	<p>○家庭科、理科、社会科の知識を併用して取り組む「Learning ~ in English」や、俳句をテーマとした単元を設定するなど、教科横断的な学びができるよう工夫してある。(2年p. 19, 3年p. 19, 32)</p> <p>○目的や場面に合わせて各技能を活用するLet'sシリーズで、日常生活に即した英語表現の習得ができるよう工夫されている。(3年p. 29)</p>	<p>○二次元コードにより、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につながっている。各単元のPreviewでは、コミュニケーションの目的、場面、状況を確認できるように工夫されている。(1年p. 58)</p> <p>○第2線と第3線の幅をやや広げて、文字の書きやすさに配慮されている。(1年p. 13)</p>	<p>○小学校で学習した単語のリストや他教科と関連付けた教材など、A3サイズの大きな紙面を使って多岐にわたる配慮されている。</p> <p>○4技能5領域を統合的に扱い、Unitの学習が定着しているか確かめるStage Activityをはじめ、各活動には、丁寧な指示や例があり、生徒が取り組みやすくなるよう工夫されている。</p>
D	<p>○各学年の教科書は、1年10PROGRAM (159ページ)、2年8PROGRAM (159ページ)、3年7PROGRAM (151ページ)で構成されている。</p> <p>○2、3年用に230～348語の計5つの読み物教材があり、インソップ寓話、国語科で扱われている物語や人物の信条についての話が扱われている。(2年p. 44, 3年p. 100)</p>	<p>○本文内容を自分の言葉で再話するRetell、自己表現活動Interact等が毎単元に、また総合的な力を試す活動Our Projectが年間2、3回設定されている。(2年p. 75, 76, 79-83)</p> <p>○1年生の入門期に小学校の既習事項を使って新しい友達とやり取りできるGet Readyと、英語の文字と音が復習できるPROGRAM Oが設定されている。(1年p. 7-19)</p>	<p>○各PROGRAMの冒頭に、新出表現の使用場面を2コマ漫画で分かりやすくまとめたScenesがある。(2年p. 8)</p> <p>○各PROGRAMの扉には、題材に関するページ一面の写真、内容を想起する問い、単元の目標が掲載されており、生徒が見通しをもって学習をスタートできるよう工夫されている。(2年p. 89)</p>	<p>○単元末に本文の内容を自分の言葉で再話するRetellが設定されており、生徒の発信力向上と既習事項の定着を促す工夫がされている。(1年p. 109)</p> <p>○各単元の本文ページ下に音読練習回数チェック欄が設けてあり、生徒が自分の取組を振り返りながら主体的に学習できるよう配慮されている。(1年p. 24)</p>	<p>○睡眠や世界の子どものたちの生活環境など、各単元に社会問題を反映した幅広いテーマがあり、生徒が世の中の問題について考える契機となるよう配慮されている。(1年p. 69, 3年p. 19, 68)</p> <p>○日常生活の様々な場面を想定したPower-Upでは複数の技能を合わせた活動が設定しており、実践的に英語を活用できるよう工夫されている。(1年p. 130, 3年p. 28)</p>	<p>○二次元コードにより、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につながっている。(1年p. 23)</p> <p>○各学年巻末資料としてアクションカードがあり、一般動詞の定着のために活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元に国際問題や平和など様々な分野のテーマを設定したり、単元の導入に2コマ漫画を用いたりするなど、生徒が興味をもって学習できるよう配慮されている。</p> <p>○Our Projectでは、生徒が相互に協力しながら習得した技能を使って総合的な言語活動に取り組めるよう、4ページに渡って丁寧な指示や例が掲載されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
F	<p>○各学年の教科書は、1年8Lesson(147ページ、付録36ページ)、2年7Lesson(125ページ、付録50ページ)、3年7Lesson(129ページ、付録54ページ)で構成されている。</p> <p>○学年に応じて198～473語の計6つの読み物教材があり、日本のとんち話や欧州でベストセラーとなった作品など、時代をこえて読まれている名作が多く掲載されている。(2年p. 66, 3年p. 64)</p>	<p>○各単元は基礎を身に付けるGetと活用するUseの二部構成で、2、3単元を終えると複数の技能を合わせた活動Projectが各学年3回ずつ設定されている。(2年p. 72-77, 78-81, 88-90)</p> <p>○1年生の入門期に、英語の文字と音や身近な単語等を復習できるStarterや、Lesson内にも小学校時に学習した単語の表示があり、小中の学びがつながるよう工夫されている。(1年p. 8-13, 17)</p>	<p>○全学年の各Lessonの扉に、題材に関係する写真と発問が2問ずつ掲載されており、導入から生徒を学習内容に引き込む工夫がされている。(3年p. 69, 87)</p> <p>○「READING FOR FUN」では、世界の名作を原作とした物語を扱い、内容を楽しみながら読む力が高まるよう工夫されている。(1年p. 144, 2年p. 122)</p>	<p>○各学年USE Readには、必要な情報を読みとる、概要を捉える、要点を捉えるなど、目的に応じた読み方ができるように複数の活動が設定されている。(3年p. 77, 95)</p> <p>○辞書の引き方や単語の覚え方、授業外での英語学習法など、生徒が自分で学習を進めるためのアドバイスFor Self-studyが各学年に1、2回設けられている。(2年p. 38, 3年p. 34)</p>	<p>○車椅子バスケットや公民権運動の歴史、社会への主体的な参画、平和、日本及び他国の文化など生徒の人間性を涵養する題材が多く配置されている。(1年p. 113, 3年p. 69)</p> <p>○日常生活で役に立つ英語をまとめた「会話表現」のページには、場面や目的に応じた表現が分かりやすくまとめられている。(1年付録p. 30-32)</p>	<p>○二次元コードにより、音声や映像など複数のデジタル教材につながっている。また付録に発音や読み物教材の補足映像などもある。(1年p. 17, 2年付録p. 3)</p> <p>○ジャンル毎のワードリストや、つづりと発音のつながりに関する資料など表現活動に役立つ資料が付録に掲載されている。(2年付録p. 11-20)</p>	<p>○幅広いテーマの本文と世界の名作がそろった読み物教材に加え、世界の偉人たちが残したメッセージが数多く掲載され、生徒が興味をもって学習できる工夫がされている。</p> <p>○学期1回のProjectで各技能・領域をバランスよく育成できるよう工夫されている。特に聞き手に伝わる効果的な朗読やスピーチの方法など、発信力が伸びるよう工夫されている。(3年p. 32)</p>
G	<p>○各学年の教科書は、1年9Lesson(163ページ)、2年9Lesson(167ページ)、3年7Lesson(167ページ)で構成されている。</p> <p>○学年に応じて201～496語の計8つの読み物教材があり、1年生にはユーモアのある比較的短い話が、2、3年生には偉人の生い立ちや信条についての長文が掲載されている。(1年p. 98, 2年p. 118)</p>	<p>○各単元の多くに本文の内容要約、複数の技能を合わせた活動、文法整理が設定されている。また、Projectとしてプレゼンテーションの活動が年2、3回設定されている。(2年p. 112-115)</p> <p>○小学校の学習内容を復習できるSpring boardに加え、Lesson 1～3には小学校での既習事項に関連した活動が設定され、小中の学びを接続する構成となっている。(1年p. 4-9, 12-19)</p>	<p>○全学年とも、表紙裏の見開き一面に色鮮やかな写真が「What a Wonderful World! どのレッスンに関連するのかな?」という言葉と共に掲載され、生徒の興味を引くよう工夫されている。</p> <p>○題材として海外だけでなく日本の都道府県も複数取り上げられ、より身近な地域の社会問題等を考えることができるよう工夫されている。(2年p. 4-7, 3年p. 4-7, 21-27)</p>	<p>○即興で話す活動に役立つ表現集Activities Plusが各学年の巻末にあり、授業の帯活動等で活用できるよう工夫されている。(1年p. 133-141, 2年p. 129-139, 3年p. 121-131)</p> <p>○効果的な英語学習の方法が先輩からのアドバイスという形で掲載されたHow to Studyが各学年1回ずつあり、生徒の主体的な学びを支援する工夫がされている。(1年p. 50, 2年p. 30, 3年p. 68)</p>	<p>○食品ロスや慈善活動などの社会問題や環境、福祉、情報、平和等を単元のテーマとし、英語学習を通して生徒が社会に目を向けられるよう配慮されている。(2年p. 82, 83, 3年p. 82, 83)</p> <p>○Tipsでは場面や目的に応じた技能を試す活動や、よりよく会話するためのポイントを探る活動など、実際に英語が使えるよう工夫されている。(1年p. 60, 2年p. 60, 3年p. 18, 20)</p>	<p>○二次元コードにより、本文の音声などのデジタル教材につながっている。(1年p. 23)</p> <p>○各学年巻末資料にはTipsやActivities Plusで活用できる単語やフレーズのカードが付いている。</p>	<p>○世界的な社会問題から日本の地方における話題まで、各単元で幅広いテーマが設定され、生徒の視野を広げ興味をもって学習できるよう配慮されている。</p> <p>○巻末に3学年分の「Can-Do自己チェックリスト」を掲載し、5領域ごとに到達目標や関連個所を示し、目標や課題を確認できるようになっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
I	<p>○各学年の教科書は、全学年8Unit (175ページ) で構成されている。</p> <p>○学年に応じて52～517語の計8つの読み物教材があり、特に2、3年生に400～500語の分量と時事を反映した話題から自分の考えを深められる話が配置されている。(3年p. 98)</p>	<p>○各Unitは「扉」「Part 1～3」「Goal」が基本構成であり、2、3Unit毎に「You Can Do It !」として複数の技能を合わせた活動が設定され技能をバランスよく伸ばす工夫がされている。(2年p. 48, 49)</p> <p>○1年生のはじめに、小学校の内容を復習するLet's Be Friends! と、学習の方法がまとめられた「英語の学び方ガイド」が設定されている。(1年p. 6-24, 26, 27)</p>	<p>○「Let's Read」では世界のトップを走り続ける日本人アスリートへのインタビューが掲載され、中学生へのメッセージも含まれており、生徒の興味・関心を高める内容となっている。(2年p. 86-89)</p> <p>○各Unitのストーリーは、登場人物が様々な体験や交流を通して成長していく、共感しやすい内容であり、生徒が興味をもって読めるよう工夫されている。</p>	<p>○即興でやりとりする際に使える表現がまとめられたLet's Talkが各学年で掲載されており、授業の帯活動等で活用できるよう配慮されている。(1年p. 144次, 2年p. 136次, 3年p. 120次)</p> <p>○各学年のはじめに「英語の学び方ガイド」、要所に「Your Coach」があり、学習上のポイントやコツなどがまとめられており、生徒の主体的な学習を支える工夫がある。(2年p. 6, 7, 118)</p>	<p>○A Iや防災など、様々な社会的な話題をテーマにした単元があり、英語学習を通して生徒が喫緊の社会問題について考えることができるよう工夫されている。(3年p. 51, 2年p. 63)</p> <p>○日常生活の場面で役に立つ表現に特化したDaily Lifeには、目的に応じた用途で各技能を高める諸活動が準備されている。(1年p. 95, 129, 2年p. 72)</p>	<p>○二次元コードにより、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につながっている。(1年p. 31)</p> <p>○巻末に「Active Words」として、様々なジャンルの単語や場面毎に使えるフレーズがまとめられている。(1年p. 145-)</p>	<p>○時事を反映した単元テーマや読み物教材、各単元の話や予測したり大まかな内容をつかんだりする導入活動など、生徒が興味をもって主体的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○World Tourとして、本編の内容とは別に、海外の文化に触れ視野を広げられるような機会が設けられている。(2年p. 46, 47)</p>
L	<p>○各学年の教科書は、1年10Unit (151ページ)、2年8Unit (159ページ)、3年6Unit (143ページ) で構成されている。</p> <p>○学年に応じて98～463語の計5つの読み物教材があり、1年生にはユーモアのあるものが、2、3年生には人物の心情や信念を読み取るものがそろえられている。(1年p. 120, 3年p. 100)</p>	<p>○各Unit末にテーマに沿った自己表現活動と本文内容の補足資料がある。また、年間2、3回、複数の技能を合わせた活動Projectに取り組めるようになっていく。(2年p. 82, 83, 88, 89)</p> <p>○1年生のはじめに、小学校の学習内容の振り返りや、小学校の思い出と中学校でしたいことを発表し合う活動が含まれるLet's Start が設定されている。(1年p. 8-21)</p>	<p>○Unit末にMore Informationとして、Unitで扱った内容に対する補足情報や追加情報を紹介し、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(3年p. 17, 59)</p> <p>○全学年とも、表紙裏の見開き一面に各単元の学習テーマと関連する写真及び、教科書で扱う国と地域が示され、生徒の学習意欲が高まるよう工夫されている。(全学年 表紙裏側)</p>	<p>○2、3年生では、Unit末にテーマに沿った短い文章を作り、グループ等で発表し合う活動Express Yourselfがあり、生徒の表現力や発信力が高まるよう工夫されている。(2年p. 16, 3年p. 16)</p> <p>○要所に「Targetのまとめ」があり、新出文法事項のまとめと練習問題が掲載されており、生徒が自ら学習を振り返ることができるよう配慮されている。(3年p. 30)</p>	<p>○動物との共生や地域の地域活性化策など、様々な社会的な話題をテーマにしたUnitが複数あり、生徒が身近な社会問題について考えを深められるよう工夫されている。(3年p. 19, p. 75)</p> <p>○「こんなときどう言うの?」や「数の読み方」など、日常会話でよく使う英語表現が分かりやすくコンパクトにまとめられている。(2年p. 6, 3年p. 6, 118)</p>	<p>○二次元コードにより、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につながっている。(1年p. 4)</p> <p>○巻末付録に発音とつづりのルールが解説されている。(1年p. 126, 2年p. 130, 3年p. 113)</p>	<p>○将来の夢や身近な地域の活動が題材として取り上げられ、内容をより自分のこととして捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○題材として漫画やアニメなど生徒が取り組みやすい内容や、地域の活性化や海外の文化など、身の回りの社会や国際社会に目を向けられるような内容を扱っている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科等及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○35時間分の教材と5時間分の付録教材、合計40時間分の教材が用意されている。1年生では、小学校の教材「橋の上のおおかみ」が掲載されている。(1年p. 180)</p> <p>○全学年の巻頭折込ページで、授業の流れや話し合いの手引きが示され、学習活動をイメージしやすいよう工夫されている。</p>	<p>○教材の冒頭に、ねらいとなる内容項目に関連したテーマを示しており、見直しをもって学習できるよう工夫されている。(2年p. 118)</p> <p>○全学年に2時間扱いの問題解決的な学習が設定されており、問題を発見し、教材を読んだりグループで話し合ったりする中で考えを深められるよう工夫されている。(1年p. 86-91)</p>	<p>○教材の冒頭に、テーマに関連のある漫画のコマや登場人物の絵を掲載し、興味・関心を高めるとともに、学習のイメージをもてるよう工夫されている。(1年p. 16)</p> <p>○全学年「Action!」が設定されており、役割演技や体験的な学習をとおして、考えを深められるよう工夫されている。(1年p. 104, 105)</p>	<p>○全学年で生命やいじめを考えるユニットがあり、それぞれ3時間の授業で重点的に学習できる構成となっている。3年生では生命倫理についても取り扱っており、発達段階を考慮した内容が設定されている。(3年p. 71-81)</p> <p>○全学年で「情報モラルと友情」をテーマにした教材を扱い、現代的な課題について考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p. 102)</p>	<p>○教材の冒頭ページ下に関連のある教科等を示すマークが示され、各教科等の学びを意識できるよう配慮されている。(2年p. 68)</p> <p>○全学年の巻末付録に「テーマで振り返る」が設けられ、道徳科と各教育活動との関連を捉えやすくしている。(3年p. 192)</p>	<p>○AB版サイズのもののある紙面となっている。</p> <p>○思考を可視化し話し合い活動を活発にするための授業支援ツール（心情円、ホワイトボード用紙）が巻末付録に用意されている。</p>	<p>○各教材末の「考えよう」「自分を見つめよう」では、それぞれに1つずつ問いが設定されており、教材の内容と実生活の両面から思考を深められるよう工夫されている。</p> <p>○生徒が感想や意見を記入できるよう、各教材に「つぶやき」の欄が設定されている。また、巻末には切り取り可能な学期ごとの振り返りのページが用意されている。</p>
G	<p>○30時間分の教材と5時間分の補充教材、合計35時間分の教材が用意されている。</p> <p>○全学年の巻頭オリエンテーションページでは、何をどのように学んでいくのが順を追って具体的に示され、学習の流れを捉えやすいよう工夫されている。(2年p. 4)</p>	<p>○教材名の下に、導入となる問いが示され、教材を通してどんなことを考えていくのか意識付けられるよう工夫されている。(1年p. 34)</p> <p>○全学年で「やってみよう」が設定されており、役割演技をしたり、日常の体験を話し合ったりする活動が示されている。(2年p. 68)</p>	<p>○集団生活を考える「けやき中」シリーズや、友情を考える「雅司、由紀、美佐」シリーズの教材が3年間にわたり掲載されており、同世代の主人公をとおして自分自身を見つめられるよう工夫されている。(1年p. 94-99)</p> <p>○「ハゲワシと少女」では、インパクトのある写真を掲載することで、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(3年p. 56)</p>	<p>○「いじめや差別のない社会」「生命の尊さ」について複数の教材やコラムを組み合わせたユニットが設定され、重層的に考えられるようになっている。</p> <p>○情報モラルについて考える教材を学年の発達段階に応じて系統的に扱っており、学びを積み重ねていくことができるよう工夫されている。(2年p. 70)</p>	<p>○日本の伝統文化として、1年「落語」、2年「狂言」、3年「将棋」が取り上げられており、国語科や音楽科と関連させながら、母国への誇りをもつことができるよう工夫されている。(1年p. 162)</p> <p>○「裁判員制度を考える」は、社会科の学習と関連付けて学習を深めることができるよう工夫されている。(3年p. 92-95)</p>	<p>○全学年巻末に「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」が掲載されており、郷土についての理解を深めることができるよう工夫されている。(2年p. 184)</p> <p>○1年前半の教材(1～10)では文字を大きくし、中学校の学習に段階的にスムーズに取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「学びの道しるべ」には3つの問いが示されており、思考を広げたり深めたりできるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に1時間ごとの学習を記録する欄、学期末・学年末に学びを振り返る切り取り可能なページが用意されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科等及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
I	<p>○31時間分の教材と4時間分の付録教材、合計35時間分の教材が用意されている。</p> <p>○授業開きとして、「道徳の授業を始めよう！」が、振り返りとして、「道徳の学びを振り返ろう」が設定されている。(1年p. 6, 160)</p>	<p>○年間を3つのシーズンに区切って学びのテーマが設定されている。各シーズンは学びのテーマに応じて複数の教材を組み合わせたユニットで構成されており、1時間の学びが単独ではなく次の教材での学びへと結びつくよう構成されている。</p> <p>○教材名の横に内容項目のキーワードを示し、見通しをもって学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○全学年でヨシタケシンスケさんの絵本「なんだろうなんだろう」や、有名人直筆のメッセージを掲載し、生徒の興味を引く工夫がされている。(1年p. 80, 81, 182, 183)</p> <p>○各学年に1教材ずつの「見方を変えて」では、役割演技を取り入れた活動が示され、生徒が実感をもって考えを深められるよう工夫されている。(2年p. 25)</p>	<p>○「いじめ問題」と「情報モラル」について取り扱う「深めたいむ」を全学年に設定し、身近な生活場面や自分の経験と重ねて考えられるよう工夫されている。(3年p. 77-81)</p> <p>○全学年に「人と人との関係づくり」を設定し、他者とよりよく関わるスキルを学ぶことができるよう工夫されている。(2年p. 26, 27)</p>	<p>○各教材の「つなげよう」では、他の教材、他教科、日常生活との関連、図書の紹介等が掲載され、道徳科の学びが広げられるよう工夫されている。(1年p. 58)</p> <p>○巻末の「教材別テーマ一覧」「この教科書が目ざした1年生の姿」により、道徳科と現代的な課題や各教科等との関わりを捉えられるようになっている。(1年p. 180, 181, 184)</p>	<p>○各学年の付録では、日本各地の玩具や世界遺産、先駆者が紹介されており、郷土についての理解を深める工夫がされている。(2年p. 185-187)</p> <p>○全学年で、巻末付録に小学校の教材が掲載されている。</p>	<p>○各教材末の「考えよう」では、教材を通して何を学ぶのか意識できるように、めあてが示され、2つの問いが用意されている。「見方を変えて」や「つなげよう」の問いもあり、多面的・多角的に考えたり、日常生活につなげたりする工夫がされている。</p> <p>○巻末にはシーズンごとにより振り返りができる切り取り可能なページが用意されている。</p>
O	<p>○35時間分の教材が内容項目のバランスを考慮して配列されている。</p> <p>○巻頭のオリエンテーションのページには、道徳科の学習意義や内容、学び方やテーマが掲載され、授業の流れや1年間の見通しを捉えやすいよう工夫されている。(2年p. 2-5)</p>	<p>○教材名の上に主題名を示したり、教材名の下に登場人物の写真や絵を掲載したりすることで、生徒の興味・関心を高めるとともに、学習の見通しを捉えやすくするよう工夫されている。(3年p. 27)</p> <p>○「学習を深めるヒント」では、学習形態や効果的な議論の方法など、学びを深めるための具体的な手立てが示されている。(3年p. 19)</p>	<p>○各学年の6つの教材に付随した「学習の進め方」では、問題解決的な学習や体験的な学習の方法、活動例が示され、学習過程をイメージできるよう工夫されている。(1年p. 26, 27)</p> <p>○「プラットホーム」「参考」「私の生き方」というコラムが適宜配置され、興味・関心を引くとともに、教材の理解を助けるものになっている。(2年p. 119)</p>	<p>○複数の教材とコラムを組み合わせたユニット「『いじめ』と向き合う」が年間に複数配置され、集中的かつ継続的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 28-49)</p> <p>○複数の教材とコラムを組み合わせたユニット「よりよい社会と私たち」が年間に複数配置され、社会への参画や将来の生き方について多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 56-71)</p>	<p>○職場体験学習に関連した教材やコラムが複数掲載されるなど、体験活動を生かした授業が展開できるよう工夫されている。(2年p. 98-109)</p> <p>○「内容項目別一覧」に各教科等との関連が示されており、道徳科と他教科とのつながりを意識した指導ができるよう工夫されている。(3年巻末)</p>	<p>○1年間の学校行事や生徒の発達段階を踏まえて、適切な時期に適切な教材を扱うことができるように構成されている。</p> <p>○別冊「道徳ノート」では、保護者記入欄も設定されており、生徒の成長を学校と家庭とで共有できるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「考えてみよう」には、ねらいに迫る問いが示されている。さらに「自分+1」の問いを用いて、自分事として考えることができるよう工夫されている。(2年p. 95)</p> <p>○別冊「道徳ノート」は教科書本冊に対応しており、発問や自分の考え、振り返りの記入欄があり、1ページに1時間の学びを記録できるようになっている。</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科 道徳 No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科等及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
P	<p>○35時間分の教材が内容項目のバランスを考えて配列されている。</p> <p>○巻頭「新しい扉を開く」で、道徳科で学ぶことや考えることを示したり、考えを深めるステップを示したりすることで、学習の流れをイメージしやすいよう工夫されている。(1年p. 2, 3)</p>	<p>○教材に主題名が示されていないことで、自ら課題を見つけ考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○ユニット学習として「地球と地域の未来のために」「夢に向かって共に輝く」の2つが用意されており、持続可能な社会や自己の生き方について多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 74-85)</p>	<p>○教材名の下にキーワードを入れることで、生徒が教材に興味・関心を寄せることができるよう工夫されている。(3年p. 10)</p> <p>○「ブラック・ジャックふたりの黒い医者」では、著名な漫画家の作品を教材として取り上げており、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(2年p. 94)</p>	<p>○全学年で「生命尊重」と「いじめ防止」を重点テーマとしており、特に生命尊重に関わる教材に「いのち」のマークをつけ、重点的に指導できるようにしている。(1年p. 24-27, 2年p. 98-109)</p> <p>○「金色の稲穂」は大田市立北三瓶中学校での出来事を取り上げたものであり、感謝することについて考えを深めることができる教材となっている。(1年p. 90-95)</p>	<p>○「クローズアッププラス」では、「生命尊重」「いじめ防止」につながる3つのテーマ「自己肯定感」「メンタルトレーニング」「アンガーマネジメント」を扱い、実生活へ生かしていけるよう工夫されている。(3年p. 41, 55, 161)</p> <p>○巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」で、各教材とテーマとの関連が分かるよう工夫されている。(2年p. 8)</p>	<p>○AB版サイズゆとりのある紙面となっている。</p> <p>○生徒が気付いたことや考えを記入できるように、各教材に「メモ欄」が設定されている。</p>	<p>○各教材末の「考えよう」では、ねらいに迫る問いが2つ用意されている。また、「深めよう」では、教材をもとに自分の考えを深め、広げることができるよう工夫されている。(1年p. 14, 15)</p> <p>○巻頭「マイプロフィール」、巻末「心の四季」「学びの記録」により、1年間の成長を確かめられるよう配慮されている。(3年p. 186-195)</p>
T	<p>○35時間分の教材が内容項目のバランスを考えて配列されている。</p> <p>○別冊「中学生の道徳ノート」の前半に、各内容項目に関連した資料が1ページずつ掲載され、本冊と合わせて活用することができるよう工夫されている。</p>	<p>○1つの教材に対して複数の内容項目を設定している教材があり、学校や生徒の実態に応じて指導できるよう工夫されている。(1年p. 180)</p> <p>○教材末の「学習の手がかり」に、主題名や内容項目が示されている教材もあり、見通しをもって学習できるよう工夫されている。(3年p. 127)</p>	<p>○各教材の最後に先人や現在活躍している著名人の言葉が掲載され、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(2年p. 47)</p> <p>○全学年で、友情をテーマにした真一と夏樹が登場する「アイツ」シリーズが掲載され、生徒が自分の成長と重ねて学習できるよう工夫されている。(1年p. 24-28)</p>	<p>○全学年で「生命尊重」と「いじめ防止・人権尊重」を重点的に扱える構成となっており、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(3年p. 160)</p> <p>○全学年の巻末に、「いじめ防止」「情報モラル」「現代的な課題」の特集が設定され、教材と合わせて活用できるよう工夫されている。(2年p. 158-163)</p>	<p>○巻末の「内容一覧」には、各教材と他教科や現代的な課題等との関わりが示され、道徳科との関連を図ることができるよう配慮されている。(1年p. 180)</p> <p>○教材と合わせて活用できる資料ページ「thinking」が各学年3つずつ掲載され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(2年p. 157)</p>	<p>○AB版サイズゆとりのある紙面となっている。</p> <p>○1年では教材文の文字を大きくし、中学校の学習に段階的にスムーズに取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「考える・話し合う」では、めあてや教材に関わる問いとともに、考えを広げ、深める視点が示されており、学びを深めることができるよう工夫されている。(1年p. 14)</p> <p>○別冊ノートには、1時間の学習記録、心に残った授業、学期・年間の振り返りを記入する欄があり、成長を確認できるよう工夫されている。</p>



# 選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科 道徳 No. 4

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科等及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
U	<p>○37時間分の教材が学習指導要領の内容項目順に配置されており、学校や生徒の実態に応じて教材の順を変えて指導できるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭に「道徳科って何を学ぶの？」のページがあり、1年間の学習の見通しをもてるよう工夫されている。(1年p. 4)</p>	<p>○教材に主題名やねらいが示されていないため、自ら課題を見つけ考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○「二つの足跡」は読み物教材ではなく、設問に答える形での教材であり、授業展開の幅が広がるよう工夫されている。(1年p. 70, 71)</p>	<p>○全学年で友情をテーマにした教材「リョウトマキ」のシリーズが掲載され、3年間を通して登場人物の葛藤や成長を自分の日常と重ねて考えられるよう工夫されている。(2年p. 48-53)</p> <p>○「ニュースで討論『支え合いは当たり前』」では、実際の新聞紙面のようなレイアウトを用いることで、興味を引くよう工夫されている。(3年p. 88)</p>	<p>○「こんなときどうしたらいいの」や「ニュースで討論『支え合いは当たり前』」では、障害者差別解消法を取り上げ、人権意識を高めるよう工夫されている。(2年p. 96, 97, 3年p. 88-91)</p> <p>○「小泉八雲が見た出雲の国」は、ふるさとのよさや異文化と向き合うことの意味を考えられるよう設定されている。(3年p. 134-137)</p>	<p>○キャリア教育の視点から生き方を考えるための教材が学年の発達段階に応じて掲載されている。(1年p. 21, 2年p. 25, 3年p. 100)</p> <p>○「もっと知りたい」では、教材に関連したコラムが掲載されており、その教材で学んだことを深めるよう工夫されている。(3年p. 21)</p>	<p>○表紙では、過去から現在まで受け継いできた伝統や文化の写真を上段に、現在から未来へとつながる新しい技術の写真を下段に掲載されている。</p> <p>○1、2年の「届きたい言葉」では、教材に関連した詩や歌の歌詞、メッセージ等が掲載されている。(1年p. 134, 135, 2年p. 68)</p>	<p>○各教材末に「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」があり、問いをとおして自分の事として捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に、道徳の時間の取組の様子を振り返るページが設定されており、1年間の成長を確認することができるよう工夫されている。</p>